

在宅介護実態調査報告書

令和 2 年 3 月

桑 名 市

目次

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査方法等	1
3	回収結果	1
4	集計分析にあたって	1
II	調査結果の分析	
1	基本属性	2
(1)	性別・年齢	2
(2)	世帯類型	3
(3)	要介護度	4
(4)	認知症日常生活自立度	5
2	介護保険サービス等	7
(1)	介護保険サービスの利用状況	7
(2)	利用しているサービス	8
(3)	利用しているサービスの組み合わせ	9
(4)	要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	11
(5)	認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	12
(6)	施設等への入所・入居の検討状況	13
(7)	サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況	14
(8)	サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況	16
(9)	要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	19
(10)	認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	20
(11)	介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況	21
3	介護者の状況	22
(1)	家族・親族による介護の頻度	22
(2)	要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度	23
(3)	主な介護者の年齢	24
(4)	介護を理由とした離職	25
(5)	介護者が不安に感じる介護等	26
(6)	サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等	32
(7)	サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等	34
(8)	就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等	40
(9)	主な介護者の勤務形態	41
(10)	働き方の調整	42
(11)	就労継続の見込み	44
(12)	サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み	45

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和2年度中に見直しを行う「桑名市地域包括ケア計画（第8期介護保険事業計画・第9期老人福祉計画）」の基礎資料を得るため、要支援・要介護認定を受け居宅で暮らしておられる人およびその介護をしておられる人から、家族介護の実態、施設入所の検討状況、家族介護者就労状況等をたずねたものです。

なお、この調査は、厚生労働省が示す「在宅介護実態調査」の内容を基本として実施し、この結果と認定データ（認定調査結果の情報等）を関連付け、分析しました。

2 調査方法等

調査対象者	調査方法	調査期間
要支援・要介護の認定を受けて、居宅で暮らしている人	認定調査員による聞き取り調査	平成31年12月～令和元年11月

3 回収結果

回収数	有効回答数
1,357	1,302

(注) 無効票は、認定データが得られなかったもの等

4 集計分析にあたって

- (1) 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- (2) 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 性別、年齢、要介護度、サービスの利用実績等については、認定データ等を用いています。

Ⅱ 調査結果の分析

1 基本属性

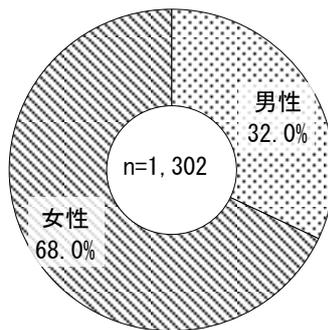
(1) 性別・年齢

調査対象者（要介護者）の性別は、男性が32.0%、女性が68.0%と女性が男性を36.0ポイント上回っています（図表2-1）。

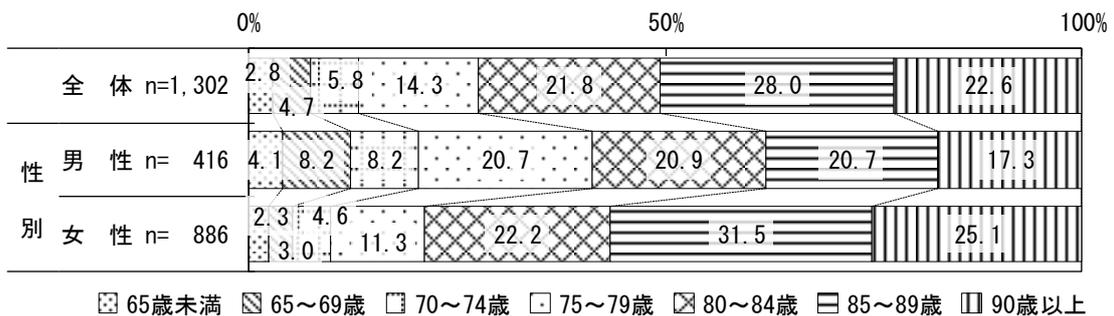
調査対象者の年齢は、65歳未満の第2号被保険者が2.8%、65～74歳の前期高齢者が10.5%、75歳以上の後期高齢者が86.7%となっています。

性別にみると、女性では後期高齢者が90.1%を占めるのに対し、男性は79.6%と10ポイント以上の差があります（図表2-2）。

図表2-1 回答者（要介護者）の性別



図表2-2 回答者（要介護者）の年齢



(2) 世帯類型

調査対象者の世帯類型は、子どもの家族との同居世帯などが中心である「その他」の世帯が52.2%を占めています。「夫婦のみ世帯」は22.9%、単身世帯は24.2%あります。

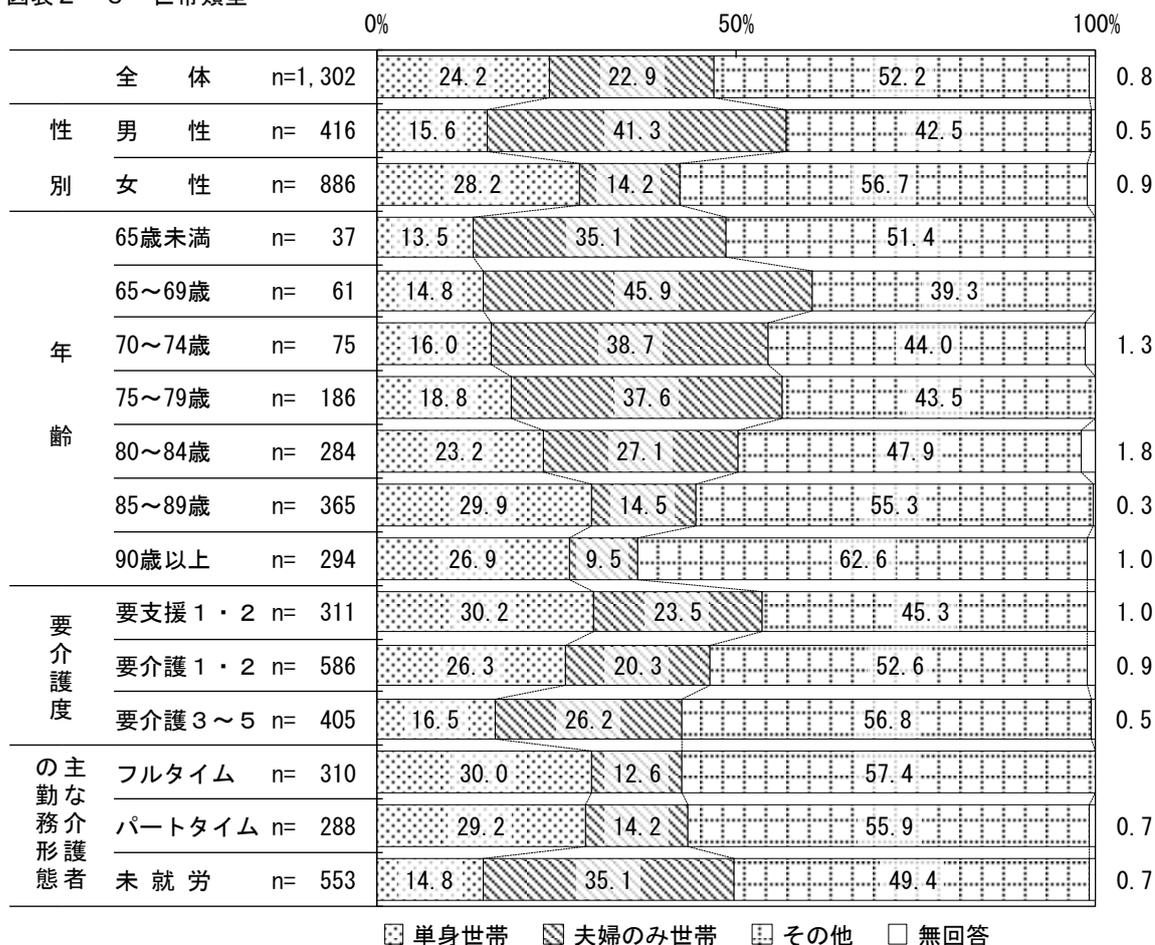
性別にみると、「単身世帯」は女性が男性より12.6ポイント高く、「夫婦のみ世帯」は男性が女性より27.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい「単身世帯」および「その他」が高く、「夫婦のみ世帯」が低くなる傾向にあります。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「単身世帯」は低く、「その他」は高くなっていますが、要介護3～5でも「単身世帯」が15%以上あります。

主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムおよびパートタイムは未就労に比べて「単身世帯」が高くなっているのに対し、未就労は「夫婦のみ世帯」が比較的高くなっています。

図表 2-3 世帯類型



(3) 要介護度

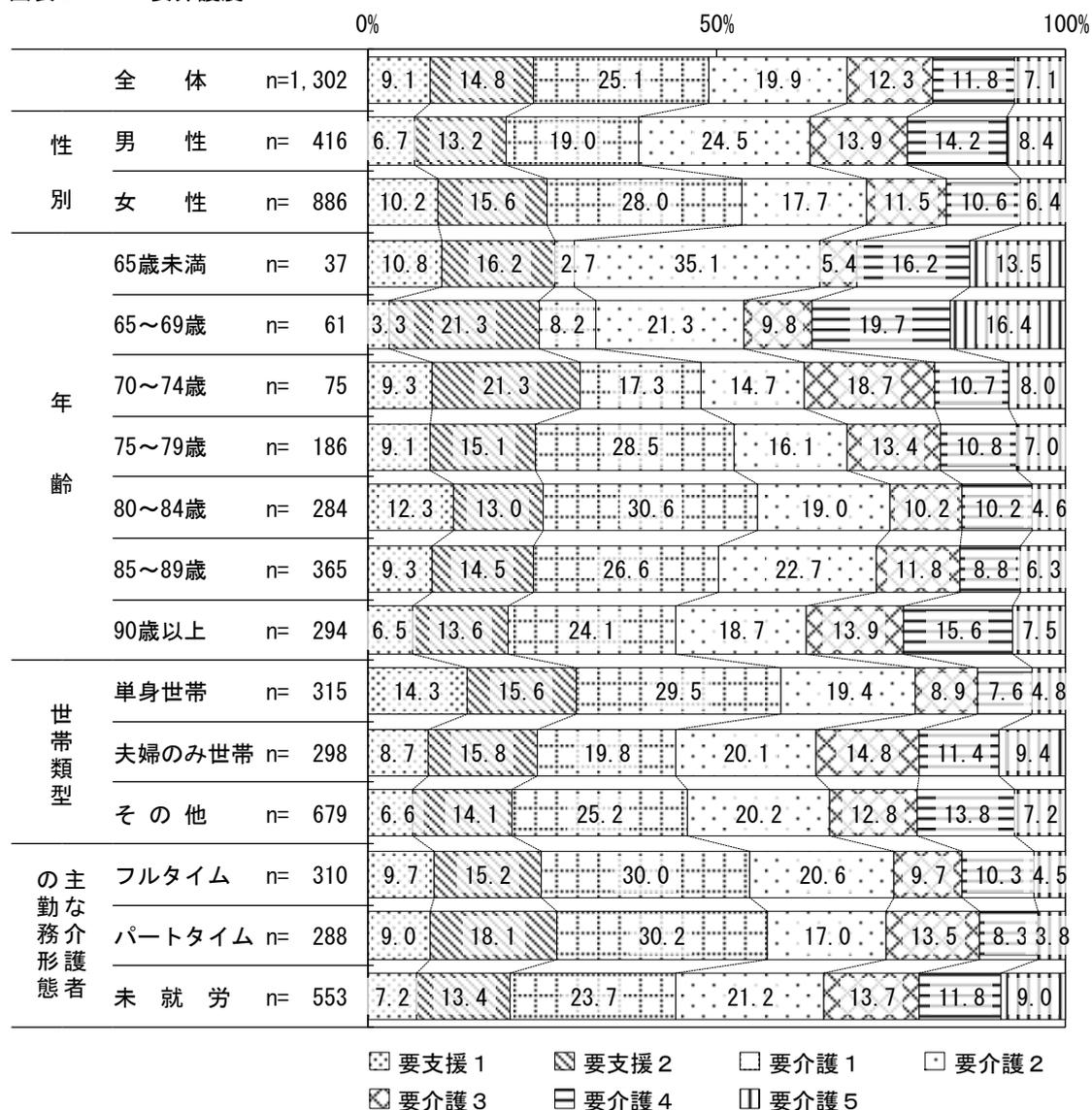
調査対象者の要介護度は、「要介護1」が25.1%と最も高く、次いで「要介護2」が19.9%、「要支援2」が14.8%の順となっています。「要支援1」「要支援2」を合計した<要支援1・2>は23.9%、「要介護1」「要介護2」を合計した<要介護1・2>は45.0%、「要介護3」から「要介護5」を合計した<要介護3～5>は31.2%となっています。

<要介護3～5>は、性別では女性に比べ男性が8ポイント高くなっています。年齢別に見ると65～69歳では45.9%を占めており、70～74歳（37.4%）、90歳以上（37.0%）も35%以上と比較的高くなっています。

世帯類型別にみると、<要介護3～5>は夫婦のみ世帯が35.6%、その他が33.8%、単身世帯が21.3%となっています。

主な介護者の勤務形態別にみると、<要介護3～5>はフルタイム（24.5%）およびパートタイム（25.6%）に比べ、未就労が34.5%と高くなっています。

図表2-4 要介護度

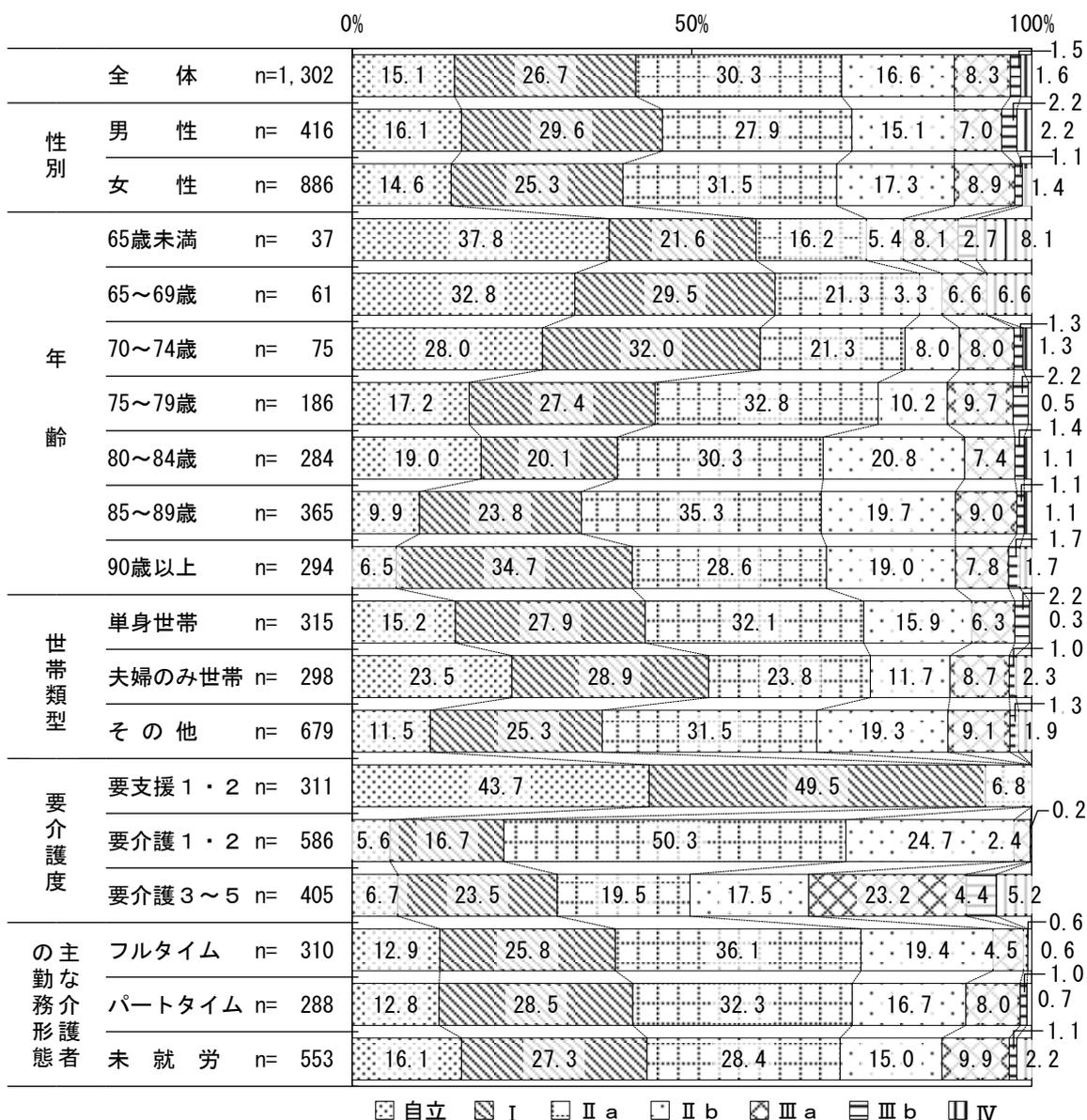


(4) 認知症日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度（以下「認知症自立度」と言います。）判定基準の<Ⅱa以上>を認知症とみると、全体では58.3%となります。<Ⅱa以上>は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあります。90歳以上ではやや低下し、Ⅰの割合が他の年齢より高くなっています。

要介護度別にみると、要支援1・2では<Ⅰ以下>が93.2%を占めています。<Ⅱa以上>は、要介護1・2が77.6%、要介護3～5が69.8%と、要介護1・2の方が高くなっていますが、介護を必要とする状態である<Ⅲa以上>では、要介護1・2（2.6%）より要介護3～5が32.8%と高くなっています。

図表2-5 認知症日常生活自立度



(注) Mの該当者はありません。

【参考】認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

レベル	判断基準
I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

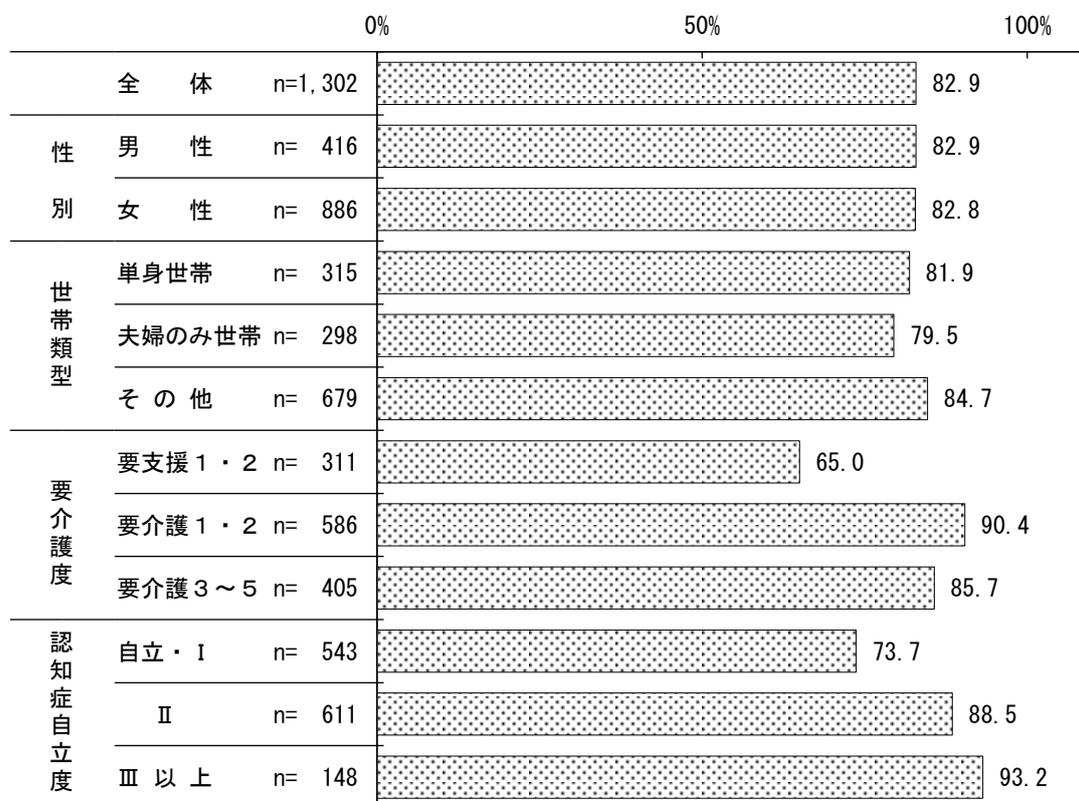
2 介護保険サービス等

(1) 介護保険サービスの利用状況

住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用率は82.9%です。

世帯類型別ではそのほか最も高くなっています。要介護度別では、要介護1・2が90.4%と最も高く、要介護3～5も85%以上と高くなっています。認知症自立度別では、重度化にしたがい高くなっており、Ⅲ以上では93.2%となっています。

図表2-6 介護保険サービスの利用状況



(2) 利用しているサービス

介護保険サービスの利用状況を見ると、「通所介護」が59.4%と突出して高く、次いで「訪問介護」が22.0%、「ショートステイ」が9.1%、「訪問看護」が8.4%、「通所リハビリ」が8.1%などの順となっています。

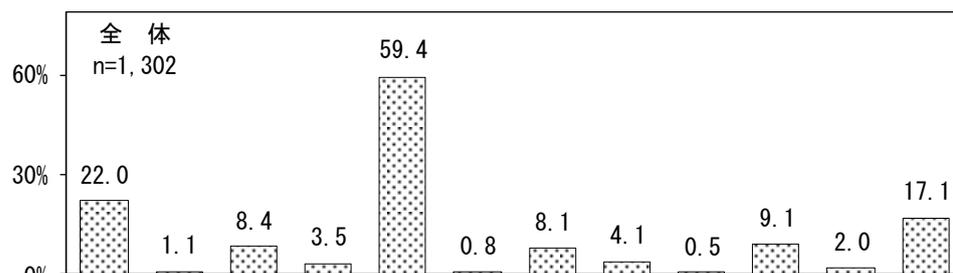
世帯類型別にみると、単身世帯では「訪問介護」が他の世帯に比べて高くなっています。また、その他の世帯では「通所介護」が他の世帯類型に比べて高く、「ショートステイ」もやや高くなっています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい利用率が高くなっていく傾向にあり、特に「訪問看護」および「ショートステイ」は要介護3～5の割合が要介護1・2に比べ約10ポイント高くなっています。

認知症自立度別においても重度化になるほど利用率が高くなり、Ⅲ以上の「訪問看護」「ショートステイ」が他に比べて高くなっています。

図表 2-7 利用しているサービス（複数回答）

単位：nは人、他は%



区分		n	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	認知症対応型通所介護	通所リハビリ	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	ショートステイ	居宅療養管理指導	未利用
性別	男性	416	24.3	1.9	12.5	5.0	59.1	0.5	8.7	3.1	0.2	6.5	2.4	17.1
	女性	886	21.0	0.7	6.5	2.7	59.5	1.0	7.9	4.5	0.7	10.3	1.8	17.2
世帯類型	単身世帯	315	34.9	0.3	9.2	1.6	56.5	1.0	5.1	7.6	0.6	4.4	2.2	18.1
	夫婦のみ世帯	298	22.5	1.3	10.7	5.4	51.0	1.0	11.1	3.7	-	7.0	2.3	20.5
	その他	679	15.8	1.3	6.9	3.5	64.4	0.7	8.2	2.7	0.6	12.2	1.8	15.3
要介護度	要支援1・2	311	11.3	0.6	3.9	2.6	46.6	-	6.8	1.9	-	1.0	1.6	35.0
	要介護1・2	586	23.7	0.2	5.6	2.7	68.4	1.4	8.4	3.8	0.3	7.7	1.2	9.6
	要介護3～5	405	27.9	2.7	16.0	5.2	56.0	0.7	8.9	6.2	1.2	17.3	3.5	14.3
認知症自立度	Ⅰ	543	21.0	1.8	7.7	4.6	50.6	-	7.6	1.7	0.2	4.2	2.2	26.3
	Ⅱ	611	22.4	-	7.0	2.1	66.9	1.0	8.7	4.7	0.7	9.3	1.0	11.5
	Ⅲ以上	148	24.3	2.7	16.9	4.7	60.1	3.4	8.1	10.1	1.4	25.7	5.4	6.8

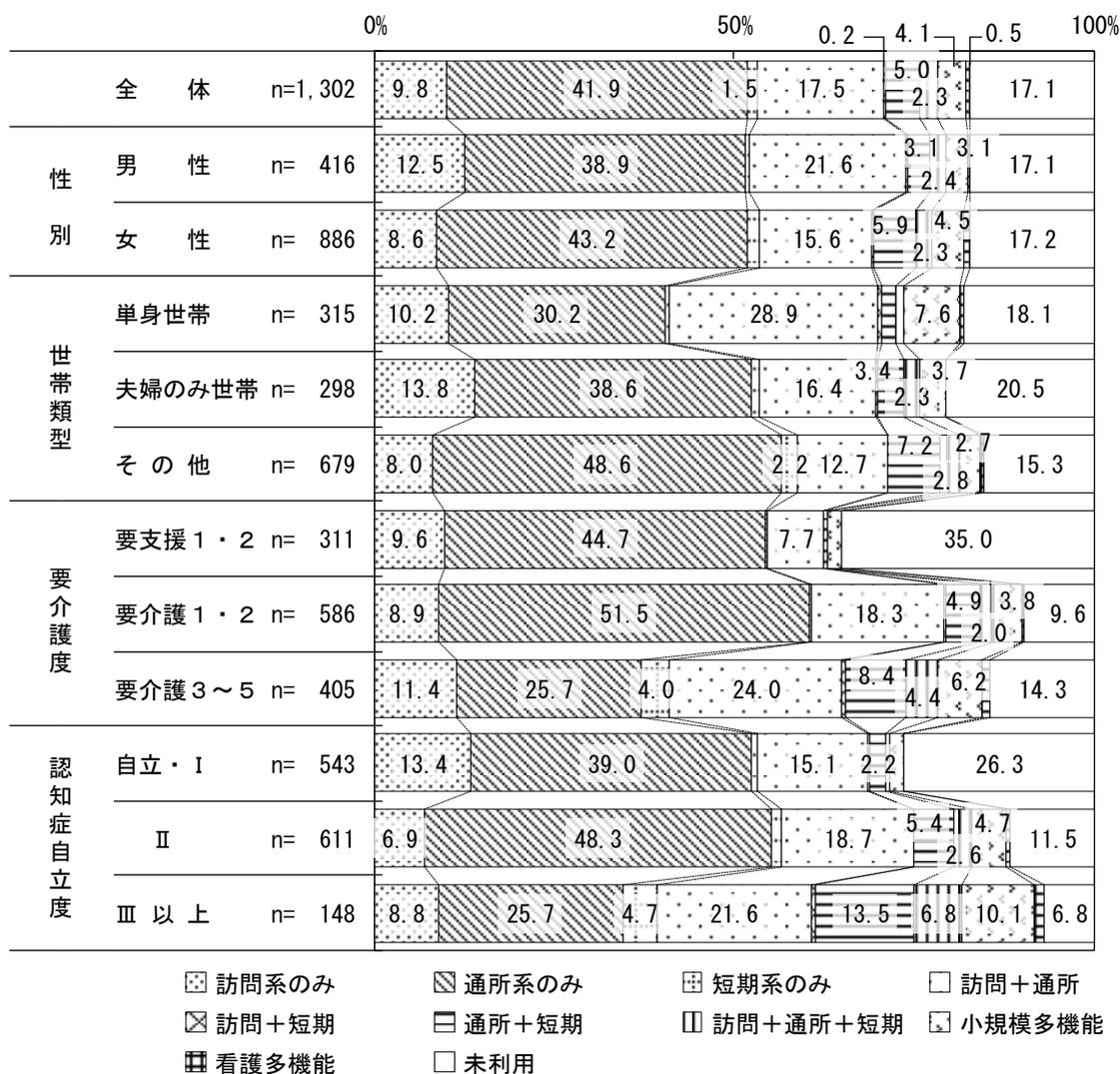
(3) 利用しているサービスの組み合わせ

利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系のみ」が41.9%と最も高く、次いで「訪問+通所」の組み合わせが17.5%、「訪問系のみ」が9.8%などとなっています。

世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯およびその他は「通所系のみ」が突出して高くなっていますが、単身世帯では「訪問+通所」も30%近くになっています。

要介護度別の要介護3～5、認知症自立度のⅢ以上では、「通所系のみ」の割合が他に比べて低く、「訪問+通所」「通所+短期」などの複数のサービスを組み合わせたパターンが高くなっています。

図表2-8 利用しているサービスの組み合わせ



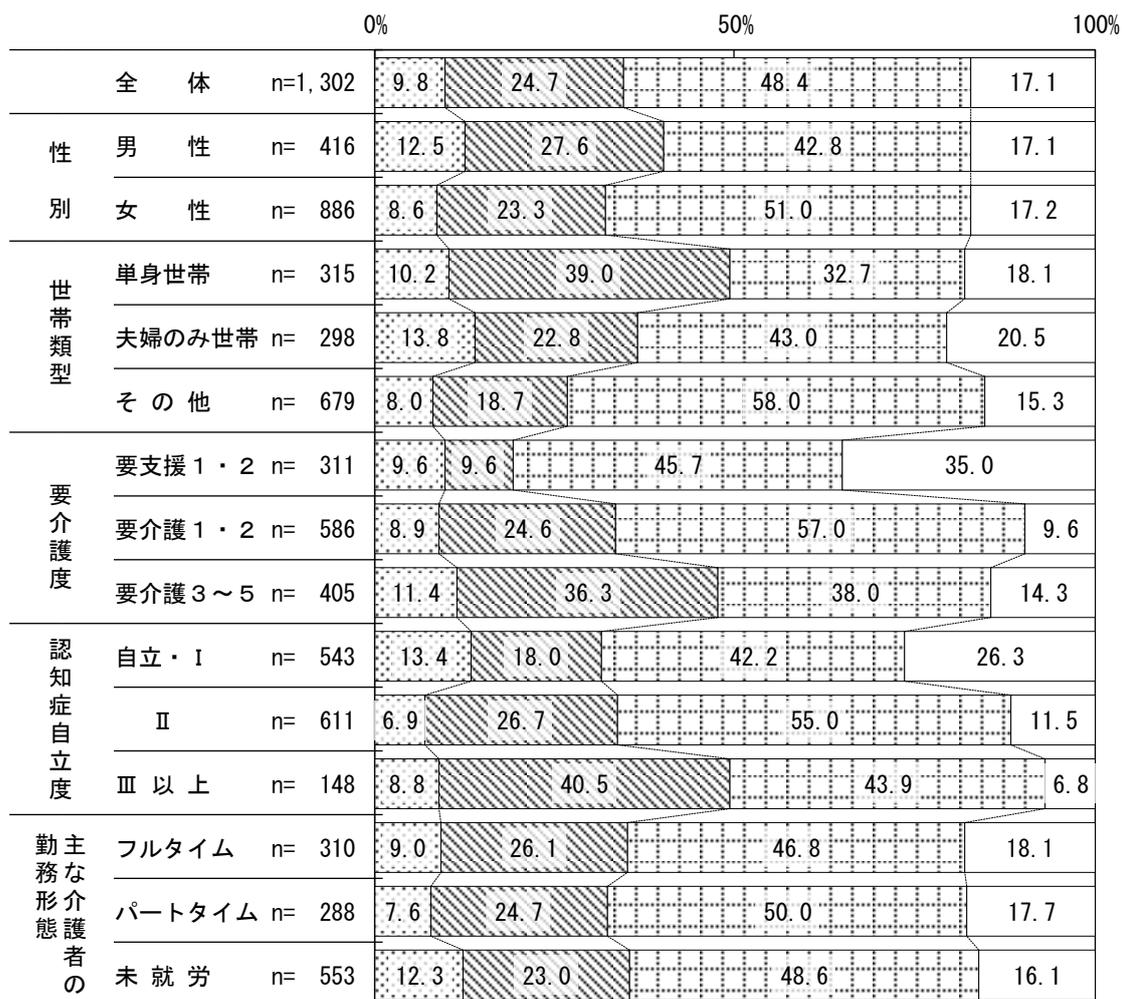
(注) 全体以外の2%未満の数値は表記を省略

利用しているサービスの組み合わせを簡略化してみると、「通所系・短期系のみ」が48.4%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.7%などとなっています。

世帯類型別にみると、単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が最も高く、夫婦のみ世帯およびその他では「通所系・短期系のみ」が最も高くなっています。

要介護度別、認知症自立度別ともに、重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。

図表 2-9 利用しているサービスの組み合わせ（簡略化）



訪問系のみ
 訪問系を含む組み合わせ
 通所系・短期系のみ
 未利用

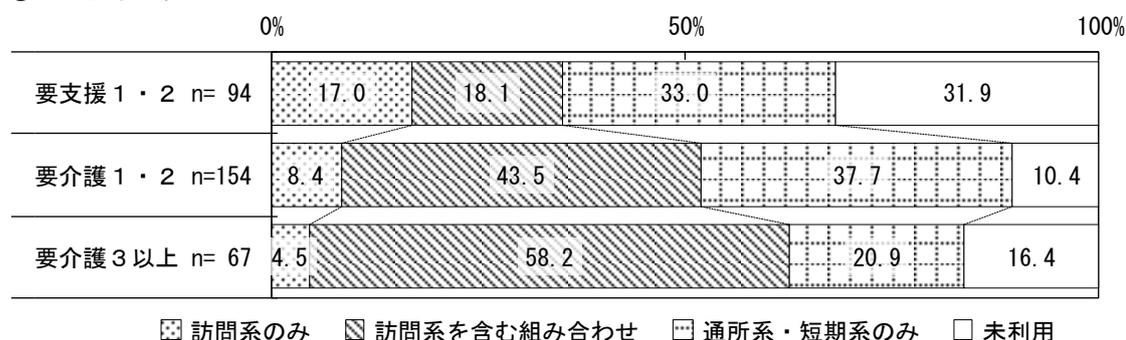
(4) 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、単身世帯は重度化にしたがい「訪問系のみ」が低下し、「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっています。夫婦のみの世帯およびその他は「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が重度化にしたがい高くなっています。

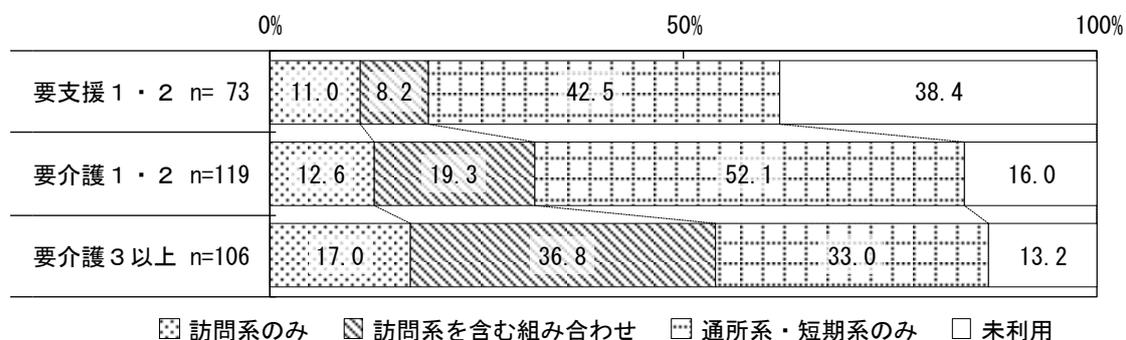
なお、「通所系・短期系のみ」は、いずれの世帯類型においても要介護1・2が他の要介護度に比べて高くなっています。

図表2-10 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

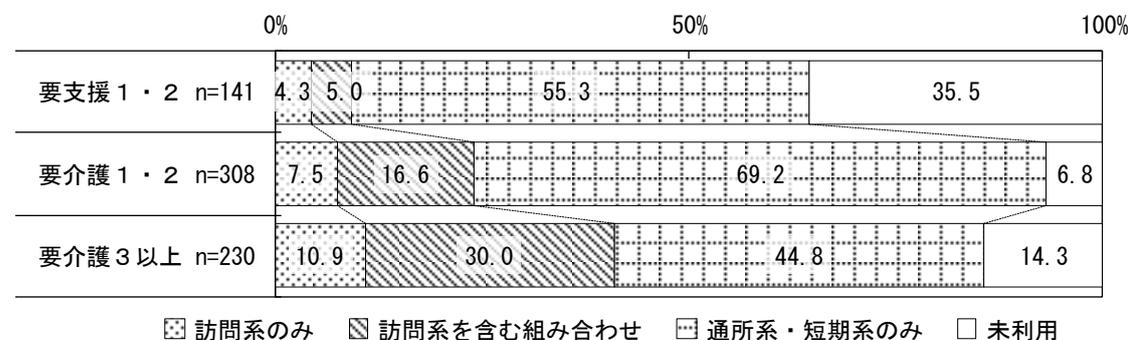
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他

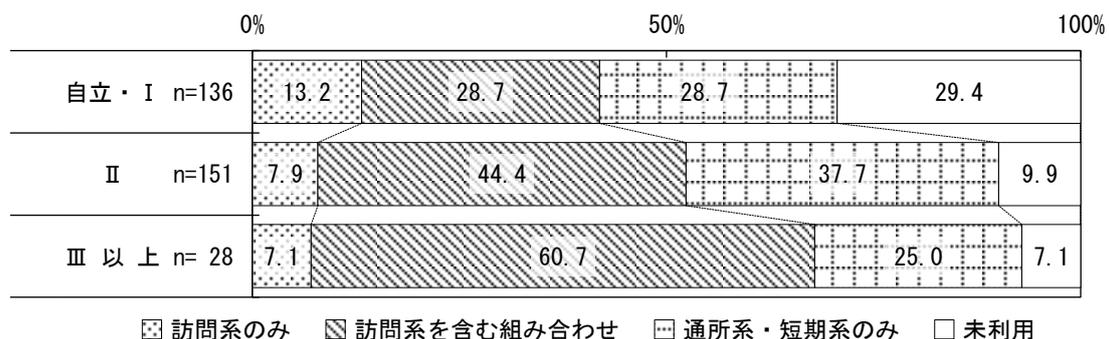


(5) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

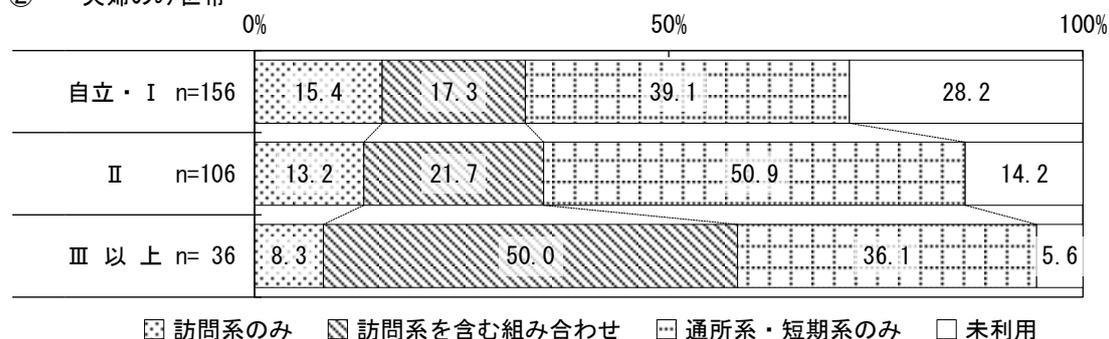
サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、単身世帯および夫婦世帯では、認知症の重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなり、「訪問系のみ」が低下する傾向にあります。その他でも、重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」が高くなっていますが、認知症自立度にかかわらず「通所系・短期系のみ」が50%以上の高い率を示しています。

図表 2-11 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

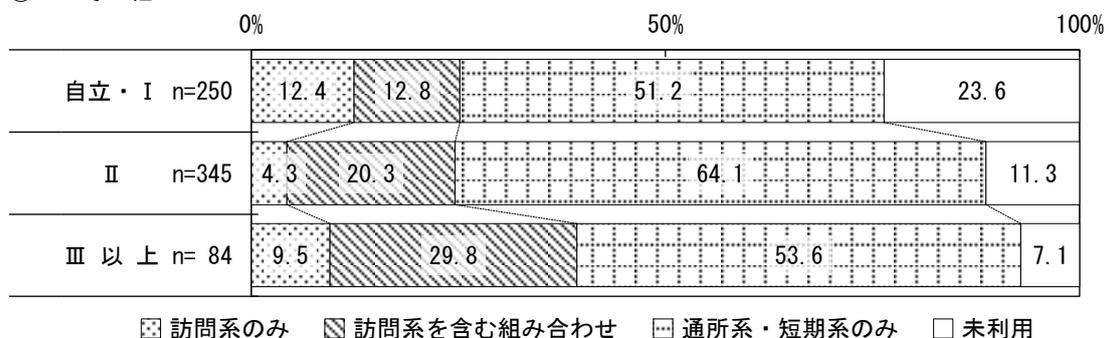
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



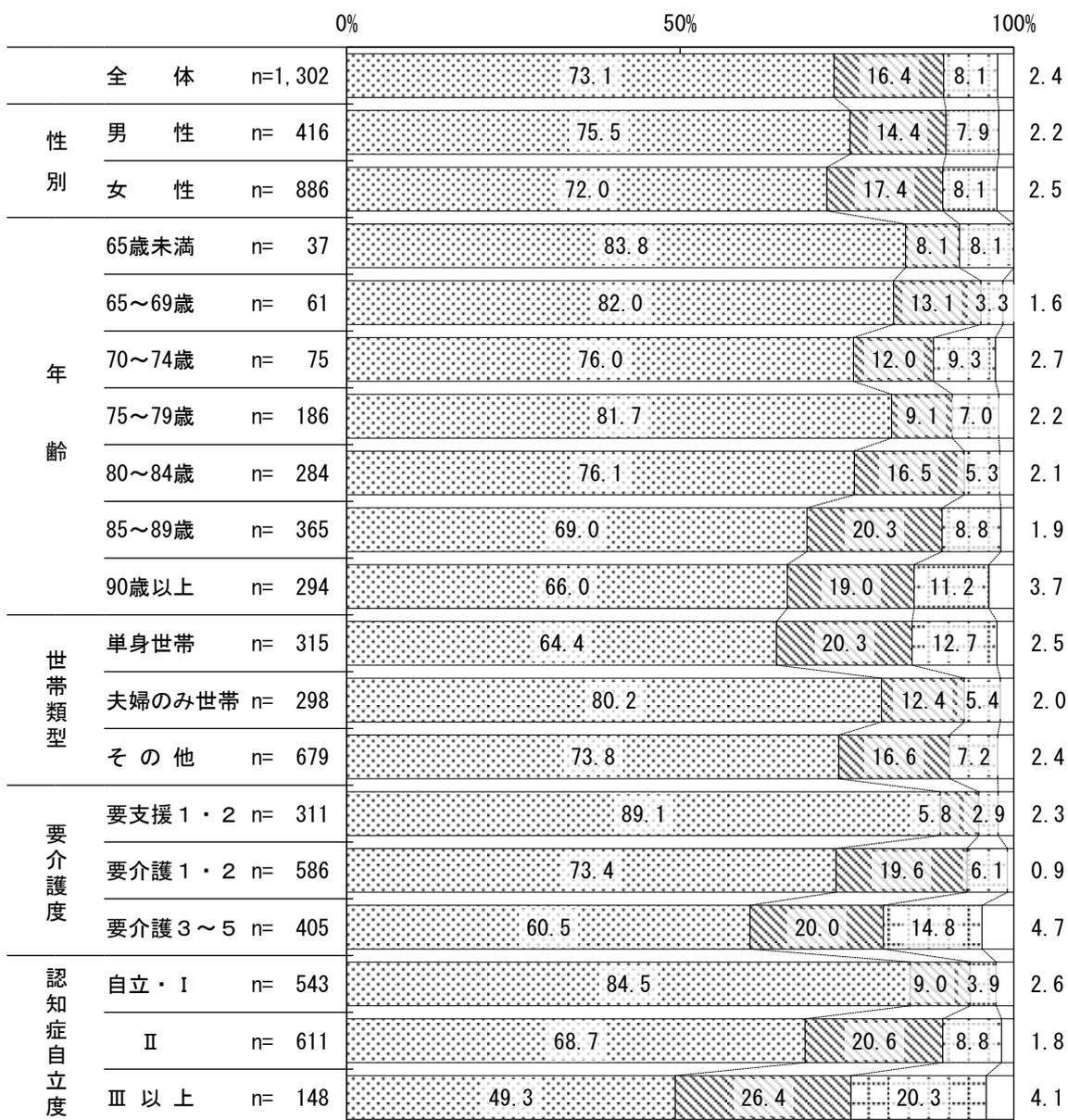
(6) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等*への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居は検討していない」が73.1%を占めています。「すでに入所・入居申し込みをしている」(8.1%)、「入所・入居を検討している」(16.4%)を合計した<入所・入居意向>は24.5%です。

<入所・入居意向>が30%を超えているのは、年齢別では90歳以上、世帯類型別では単身世帯、要介護度別では要介護3～5、認知症自立度別ではⅢ以上です。心身の状態の悪化・重度化や家族介護者の不在が入所・入居意向に影響していることがわかります。

*「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

図表 2-12 施設等への入所・入居の検討状況



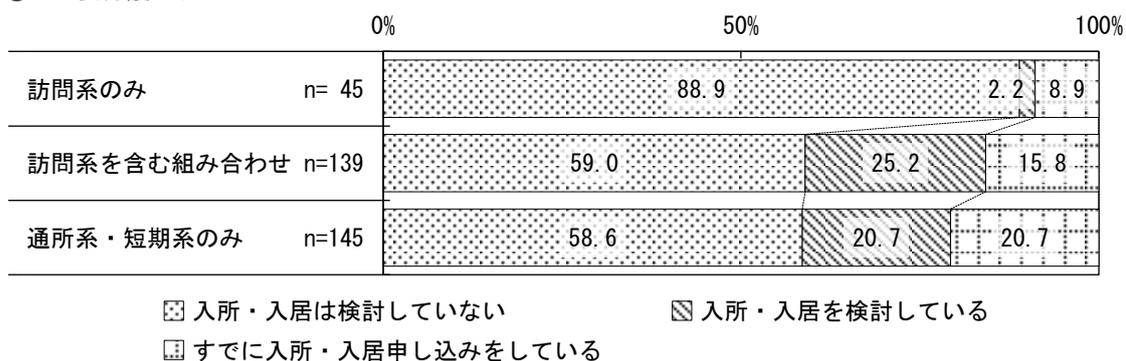
検討していない 検討している
 すでに入所・入居申し込みをしている 無回答

(7) サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況

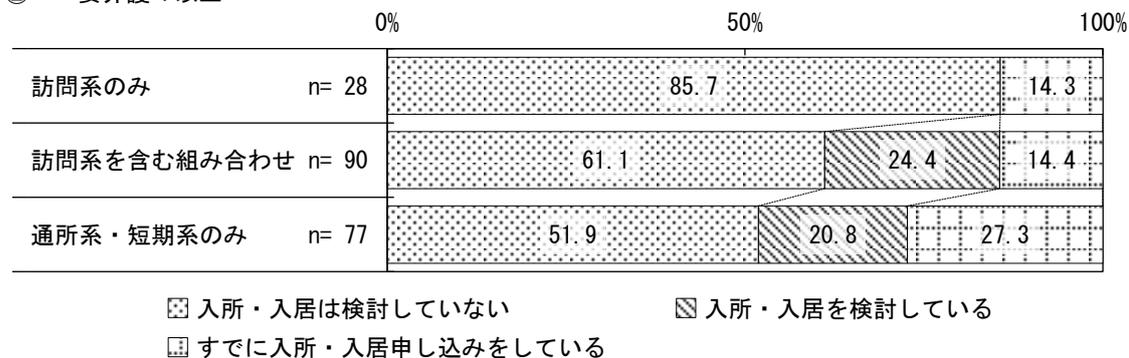
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①～③のいずれの場合においても、《訪問系のみ》に比べて、《訪問系を含む組み合わせ》《通所系・短期系のみ》の<入所・入居意向>が高くなっています。特に②および③の《通所系・短期系のみ》の<入所・入居以降>は50%前後を占めています。

図表2-13 施設等への入所・入居の検討状況（サービス利用の組み合わせ別）

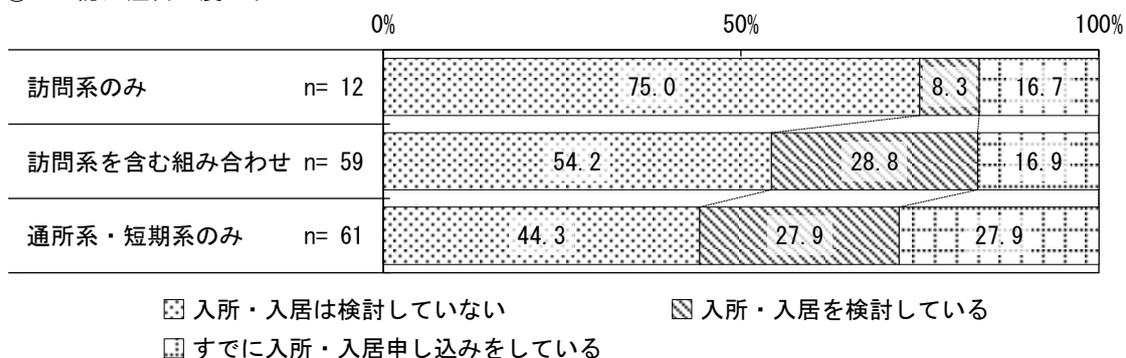
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上

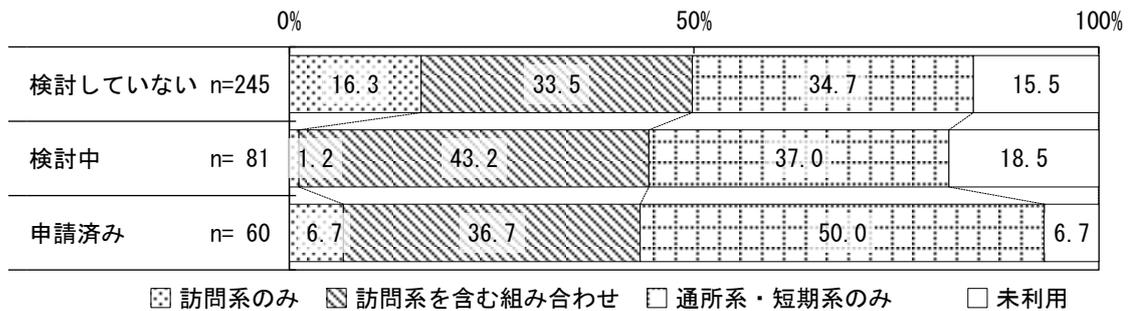


(注) 無回答を除く

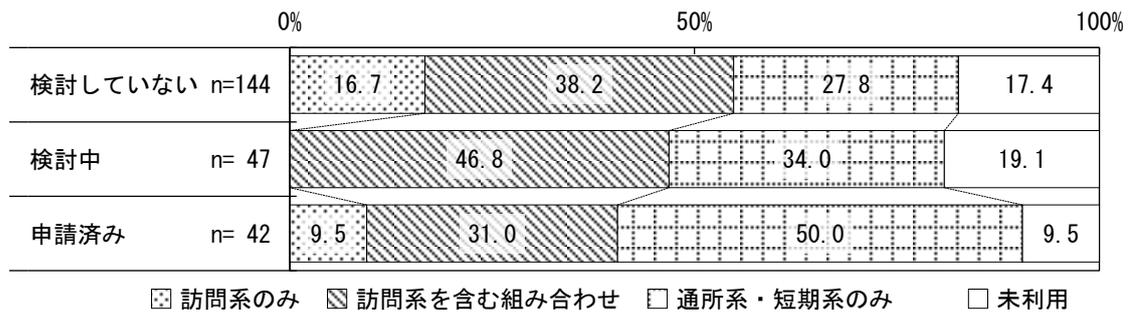
①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせを施設等への入所・入居の検討状況別にみると、①～③のいずれの場合も《検討していない》の「訪問系のみ」が《検討中》《申請済み》より高く、《申請済み》の「通所系・短期系のみ」が《検討していない》《検討中》より高くなっています。

図表2-14 サービス利用の組み合わせ（施設等への入所・入居の検討状況別）

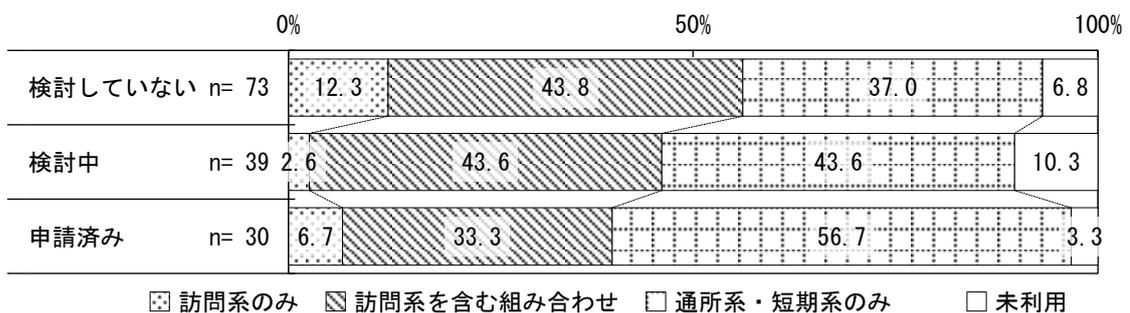
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上



(8) サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況

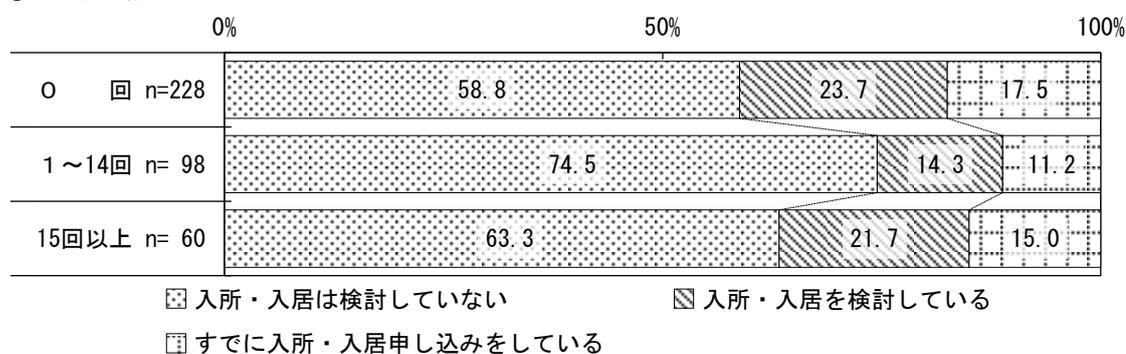
① 訪問系サービス

施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、①要介護3以上では、利用回数が《0回》の<入所・入居意向>が41.2%と最も高くなっています。「入所・入居は検討していない」が最も高いのは《1～14回》です。

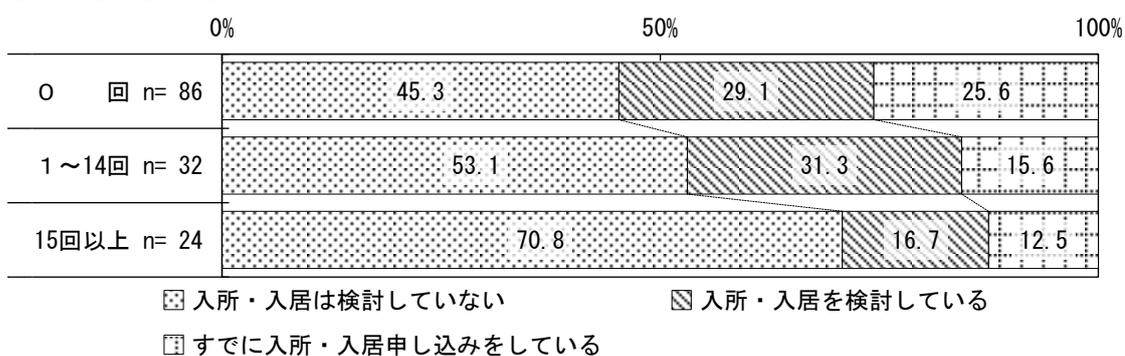
②認知症自立度Ⅲ以上では、《0回》の<入所・入居意向>が54.7%と最も高く、利用回数が増えるにつれ低くなっています。「入所・入居は検討していない」が最も高いのは《15回以上》です。

図表2-15 訪問系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



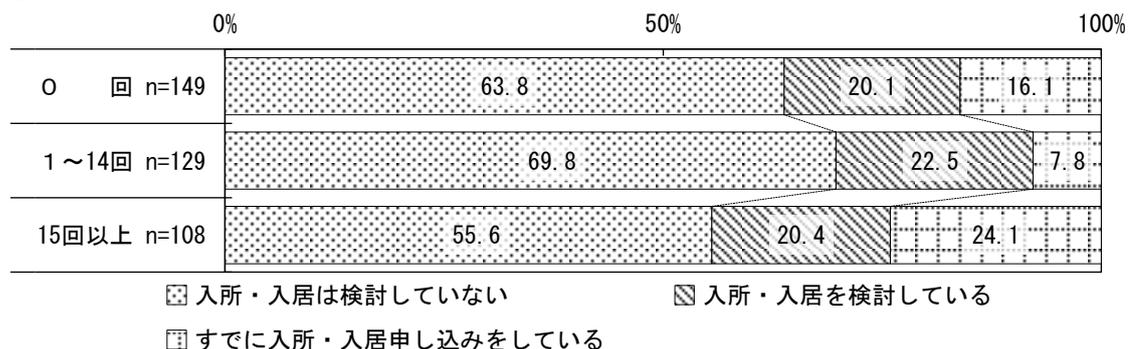
(注) 無回答を除く

② 通所系サービス

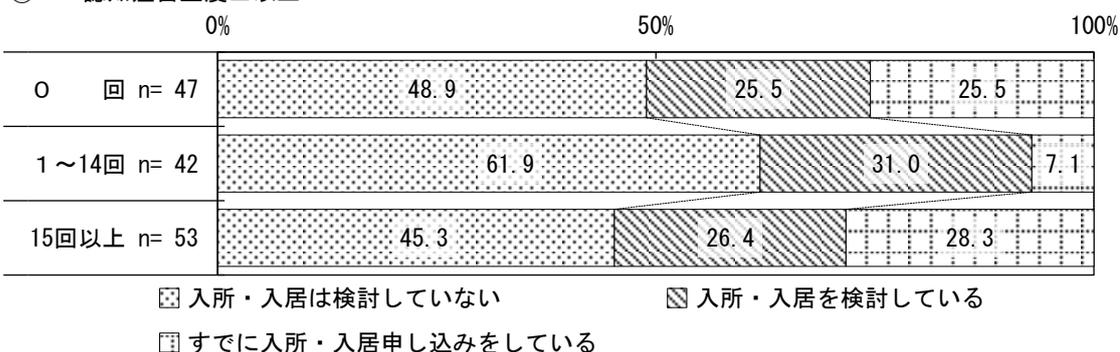
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、〈入所・入居意向〉が最も高いのは、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上ともに、《15回以上》で、次いで高いのは《0回》となっています。「入所・入居は検討していない」が高いのは①②ともに《1～14回》です。

図表2-16 通所系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



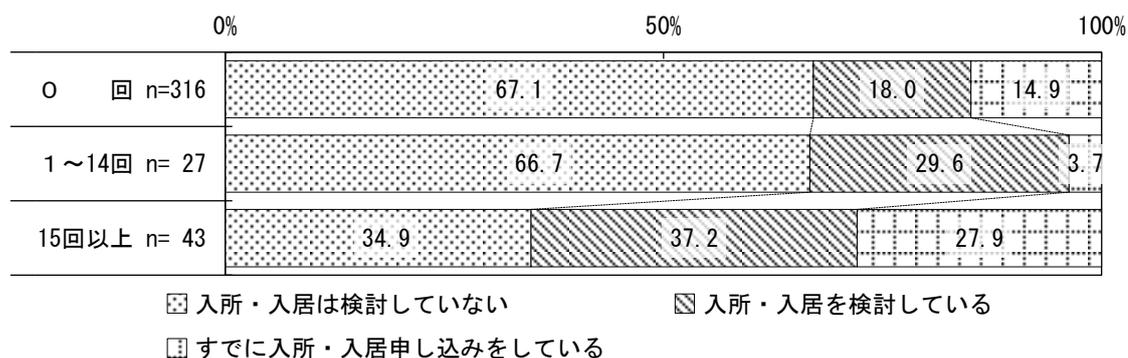
(注) 無回答を除く

③ 短期系サービス

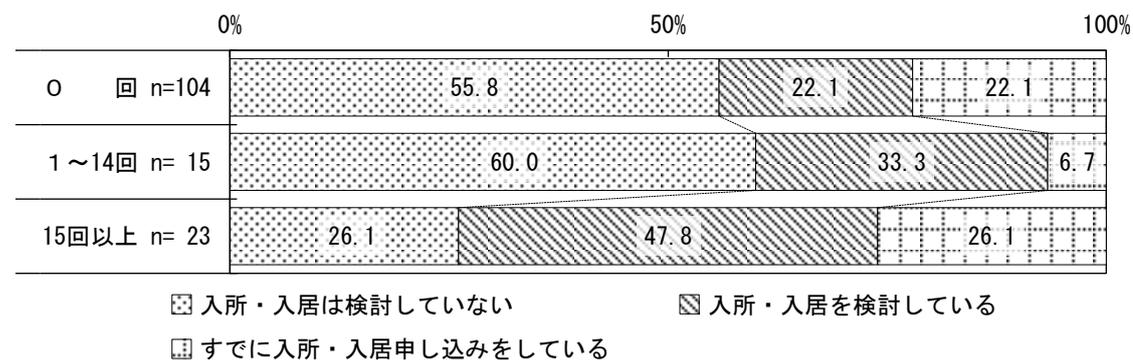
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、①②ともに利用回数が《15回以上》の<入所・入居意向>が65%以上と高くなっています。

図表2-17 短期系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



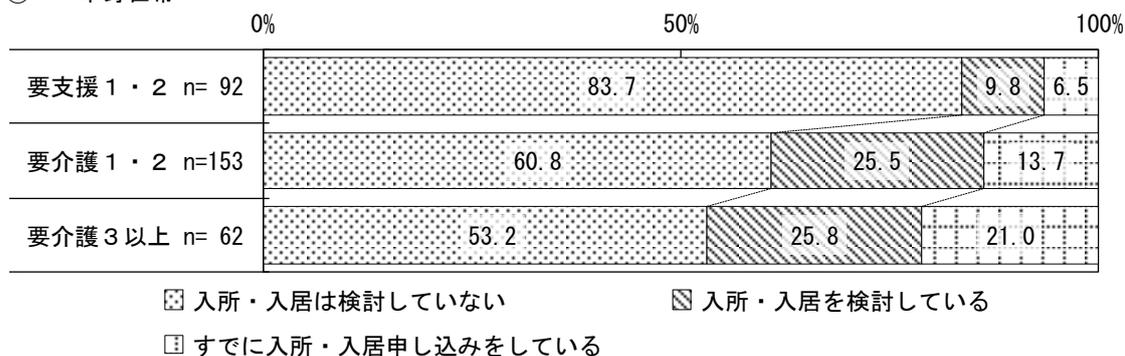
(注) 無回答を除く

(9) 要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

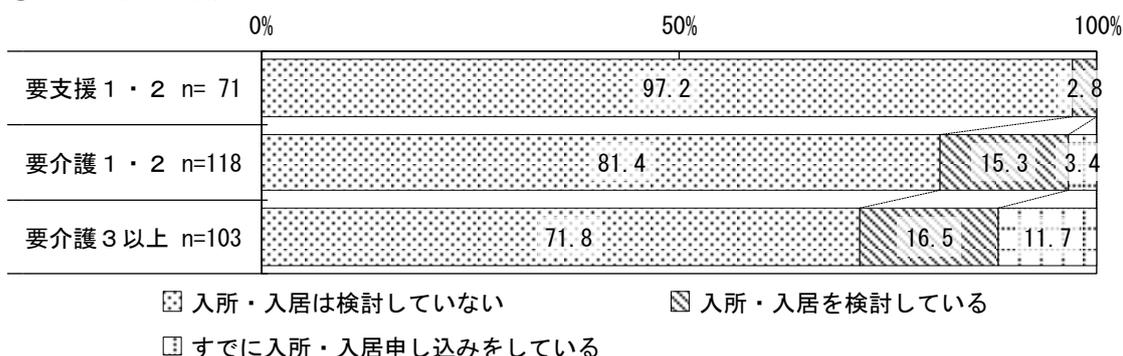
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、いずれの世帯においても重度化にしたがい入所・入居意向>が高くなり、軽度ほど「入所・入居は検討していない」が高くなっています。

図表 2-18 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・世帯類型別）

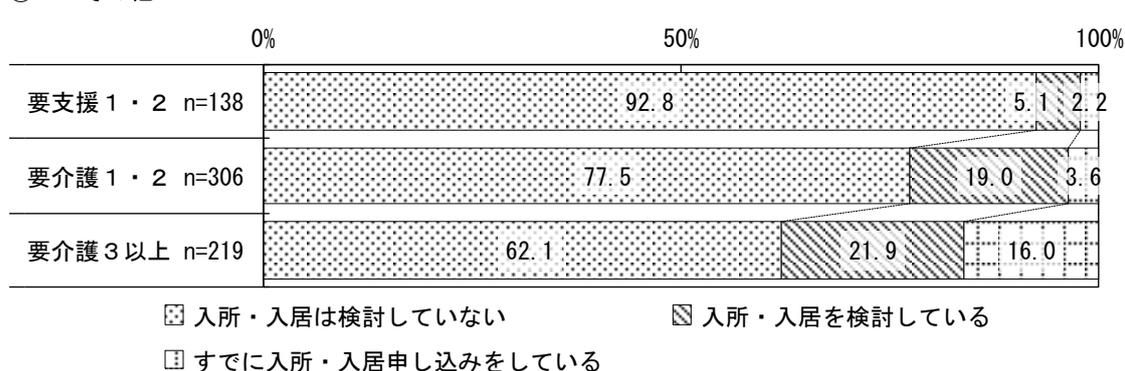
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



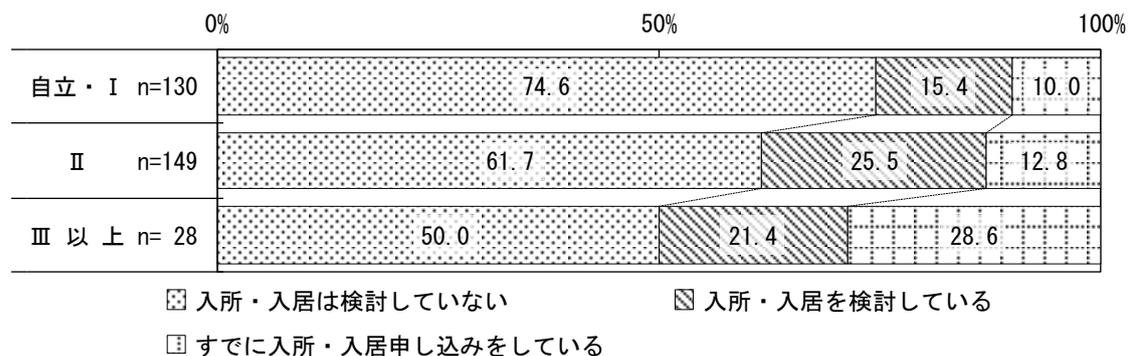
(注) 無回答を除く

(10) 認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

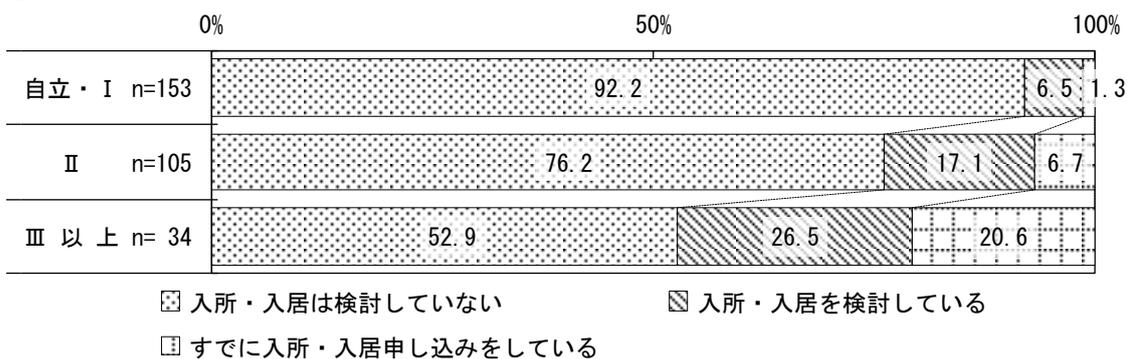
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、いずれの世帯においても重度化にしたがい<入所・入居意向>が高く、軽度ほど「入所・入居は検討していない」が高くなっています。

図表 2-19 施設等への入所・入居の検討状況（認知症自立度別・世帯類型別）

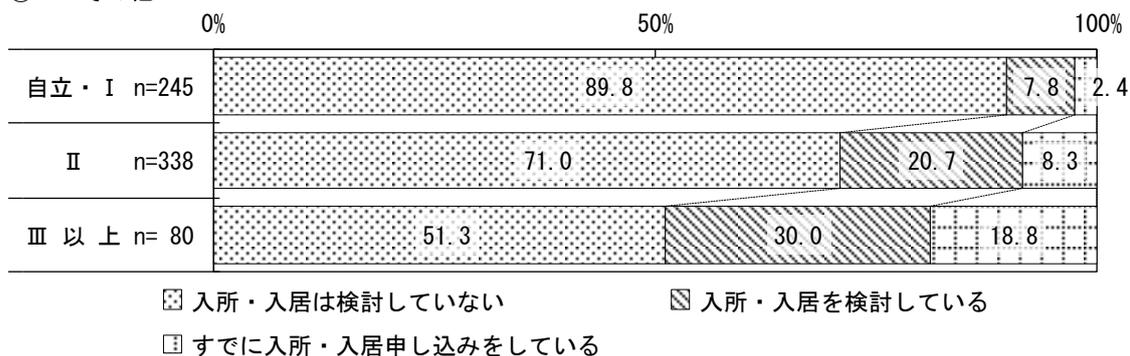
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他

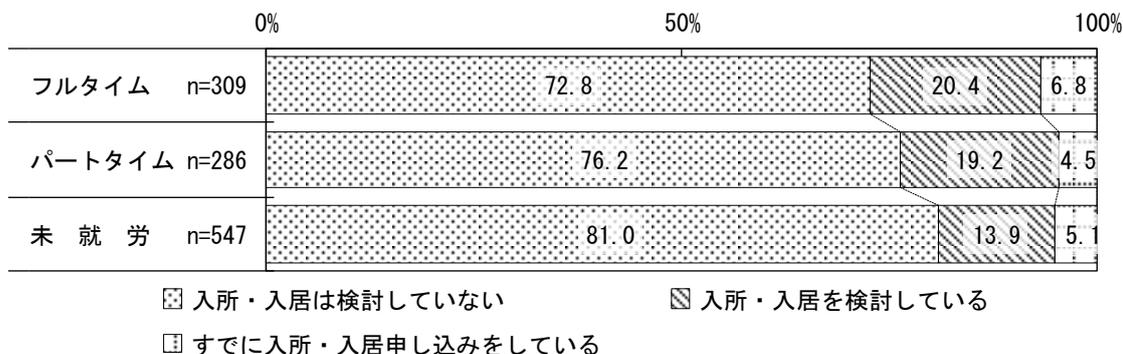


(注) 無回答を除く

(11) 介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況

介護者の就労状況別に、施設等への入所・入居の検討状況をみると、〈入所・入居意向〉が最も高いのはフルタイムの27.2%です。パートタイムの〈入居・入居意向〉は23.7%、未就労は19.0%です（図表2-20）。

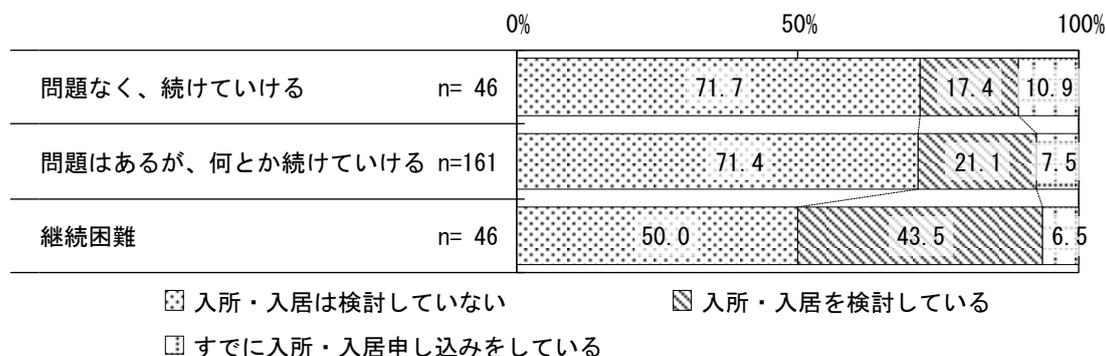
図表2-20 施設等への入所・入居の検討状況（就労状況別）



(注) 無回答を除く

また、要介護2以上で介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、継続困難の〈入所・入居意向〉が50.0%と、他に比べて20ポイント以上高くなっています（図表2-21）。

図表2-21 施設等への入所・入居の検討状況（就労継続見込み別・要介護2以上で介護者が就労）



(注) 1 「継続困難」 = 「続けていくのは、やや難しい」 + 「続けていくのは、かなり難しい」

2 無回答を除く

3 介護者の状況

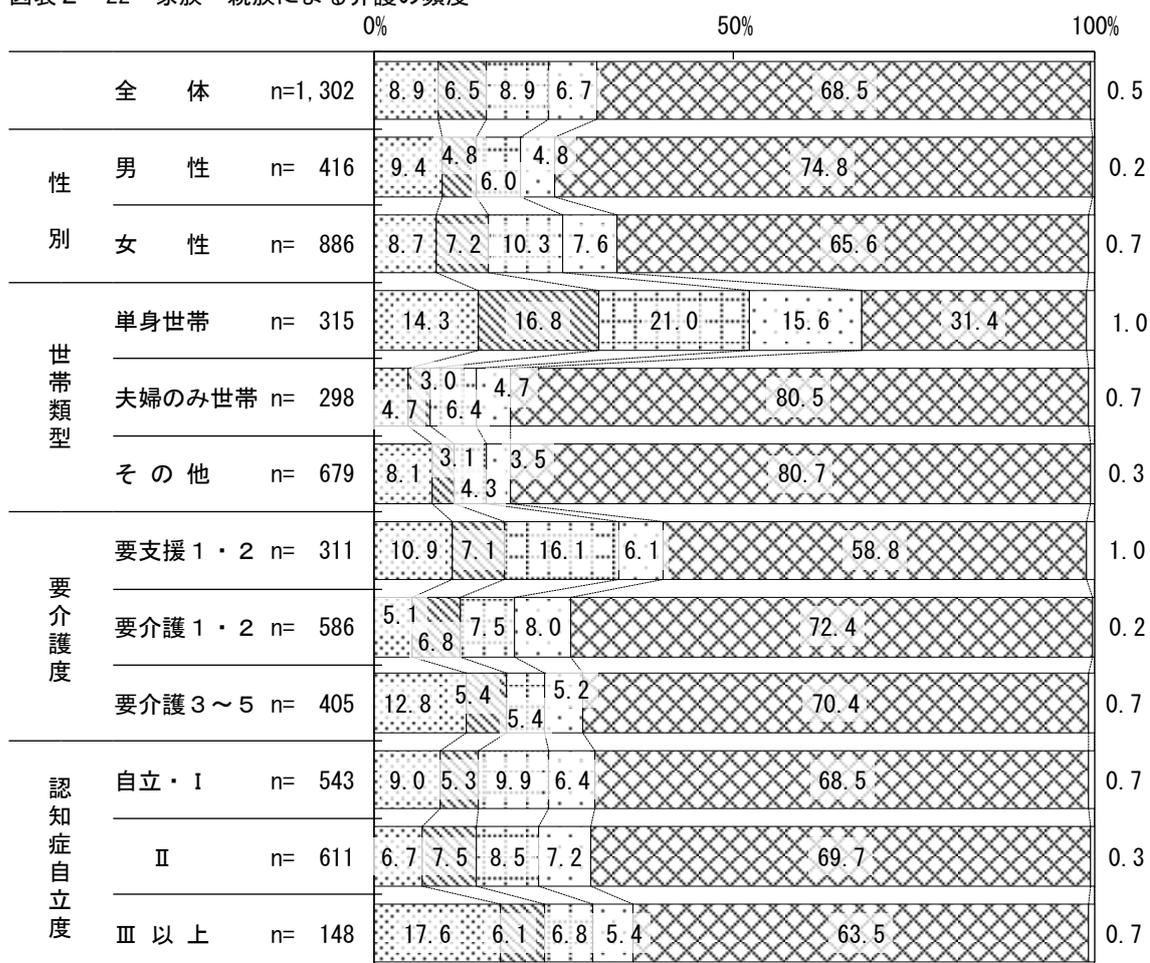
(1) 家族・親族による介護の頻度

家族・親族からの介護（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）については、「ほぼ毎日ある」が68.5%を占めており、これに「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」を加えた<家族・親族の介護を受けている>人は90.6%です。「ない」は8.9%となっています。

要介護度別にみると、要支援1・2では「ほぼ毎日ある」が58.8%であるのに対し、要介護1・2および要介護3～5は70%以上となります。

認知症自立度別では、Ⅲ以上の「ない」の割合が、自立・ⅠおよびⅡに比べて高くなっています。

図表2-22 家族・親族による介護の頻度



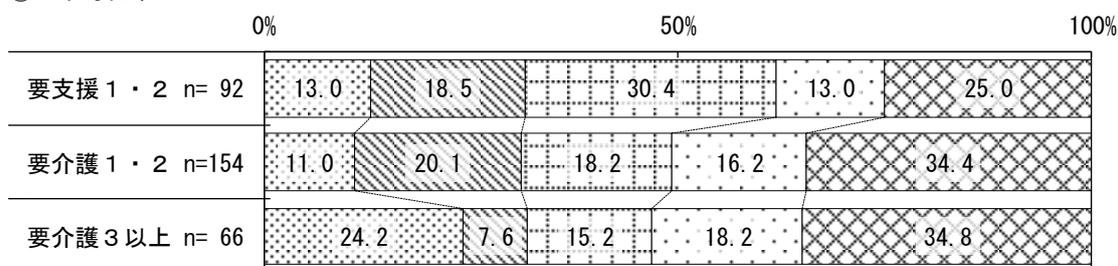
- ☐ ない
- ▨ 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない
- ▩ 週に1～2日ある
- ▧ 週に3～4日ある
- ▦ ほぼ毎日ある
- 無回答

(2) 要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度

家族・親族による介護の頻度を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、②夫婦のみ世帯および③その他では、要介護度に係わらず「ほぼ毎日」が70%以上となっていますが、①単身世帯では35%未満です。

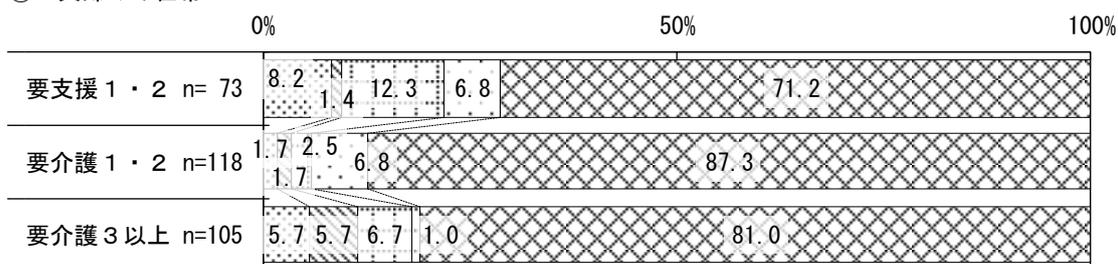
図表 2-23 家族・親族による介護の頻度（要介護度別・世帯類型別）

① 単身世帯



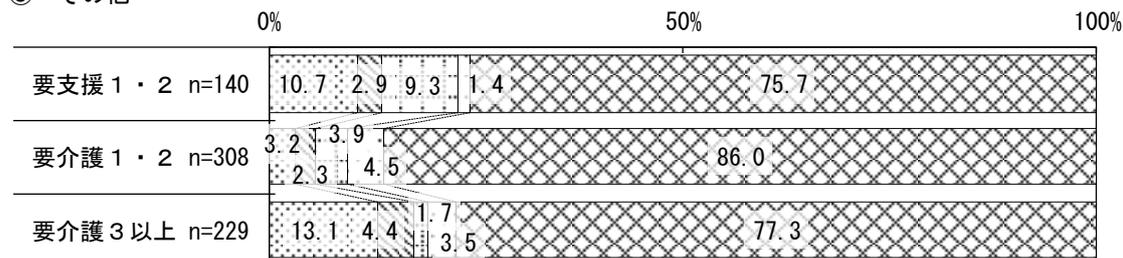
□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある □ 週に3～4日ある ▤ ほぼ毎日ある

② 夫婦のみ世帯



□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある □ 週に3～4日ある ▤ ほぼ毎日ある

③ その他



□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある □ 週に3～4日ある ▤ ほぼ毎日ある

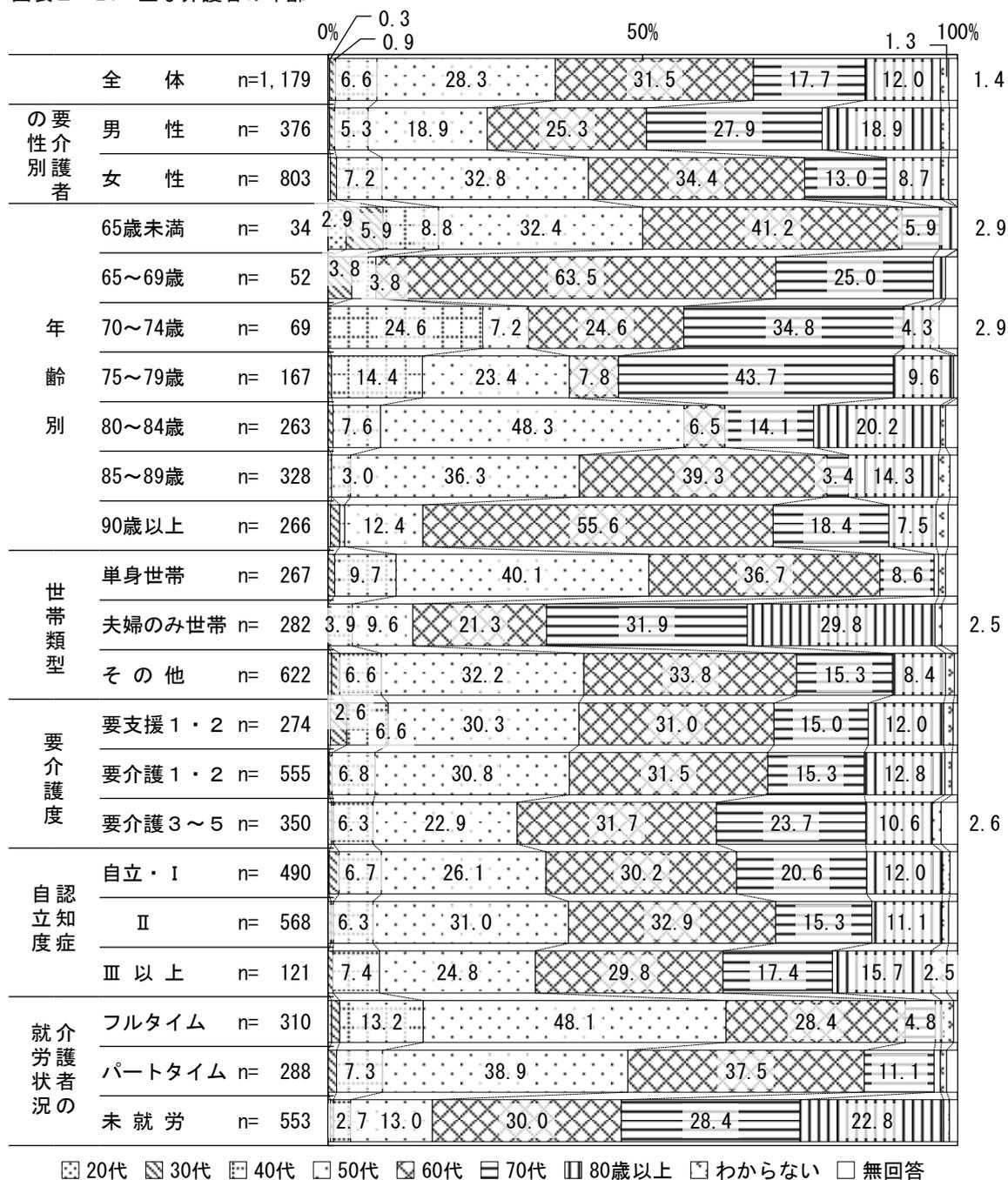
(注) 無回答を除く

(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は「60代」が31.5%と最も高く、次いで「50代」が28.3%、「70代」が17.7%、「80歳以上」が12.0%の順となっています。

要介護者の性別でみると、男性の場合、配偶者が主な介護者となることが多いため70代以上が46.8%を占めています。世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では70代以上が61.7%を占めています。

図表 2-24 主な介護者の年齢



(4) 介護を理由とした離職

家族や親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問わない）がいるかをたずねたところ、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は4.6%（54人）、「主な介護者が転職した」は0.6%（7人）となっており、合計した＜主な介護者の離職・転職＞は5.2%です。＜主な介護者以外の離職・転職＞は0.9%です。

＜主な介護者の離職・転職＞は、要介護度別および認知症自立度とも重度化にしたがい高くなっています。

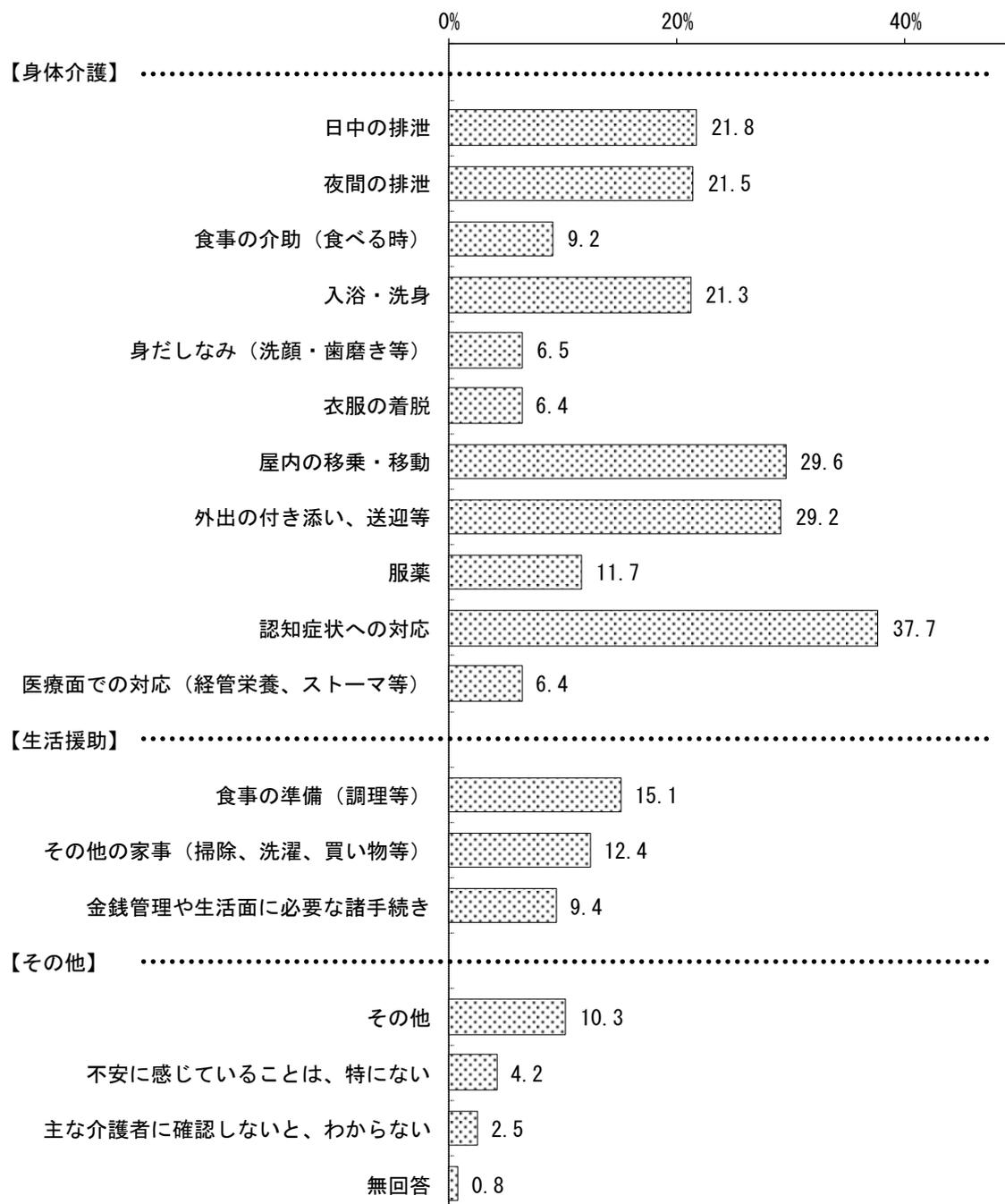
図表2-25 介護を理由とした離職（複数回答）



(5) 介護者が不安に感じる介護等

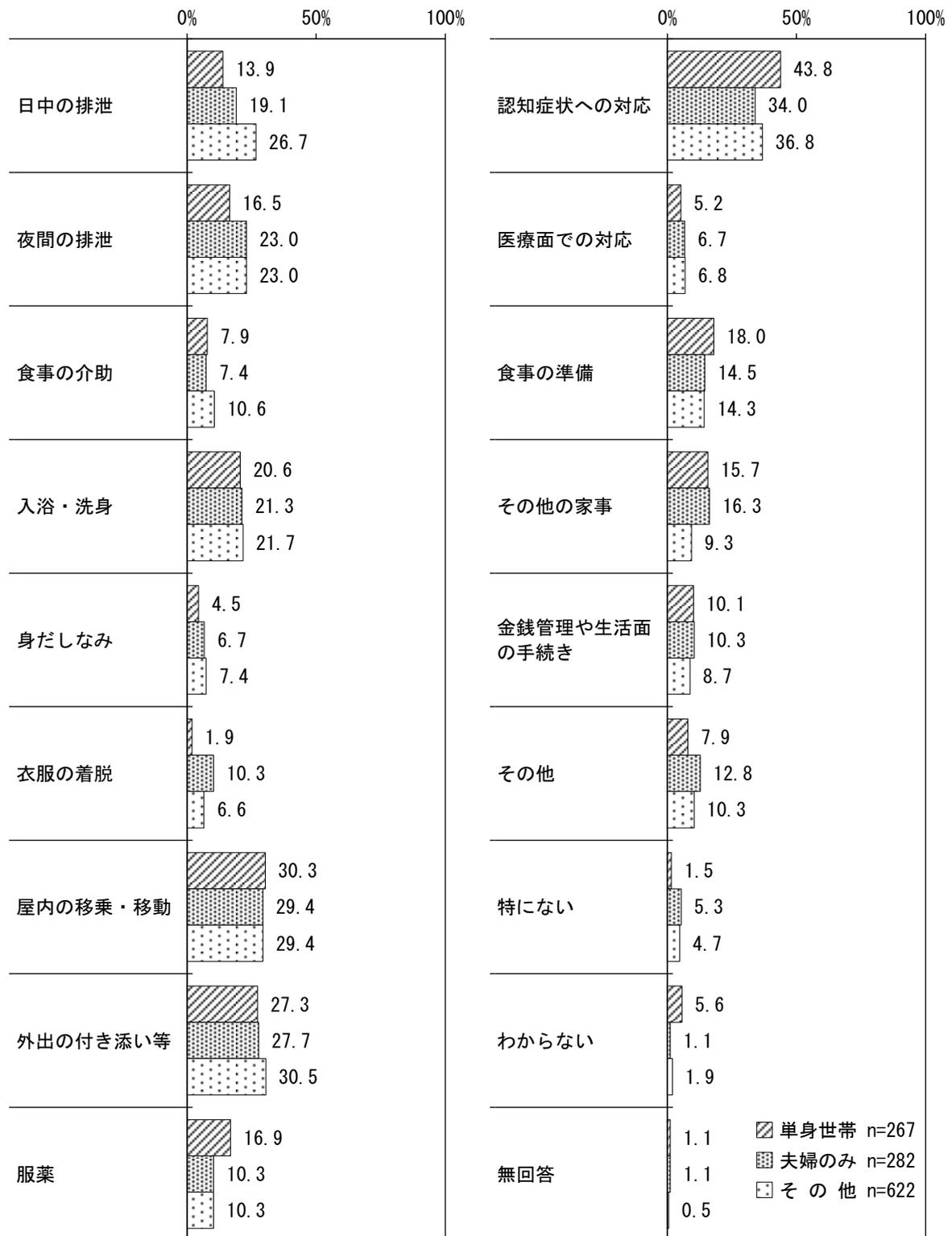
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等（現状で行っているか否かは問わない）についてたずねたところ、「認知症状への対応」が37.7%と最も高く、次いで「屋内の移乗・移動」が29.6%、「外出の付き添い、送迎等」が29.2%、「日中の排泄」が21.8%、「夜間の排泄」が21.5%、「入浴・洗身」が21.3%などとなっています。

図表 2-26 介護者が不安に感じる介護等（複数回答）



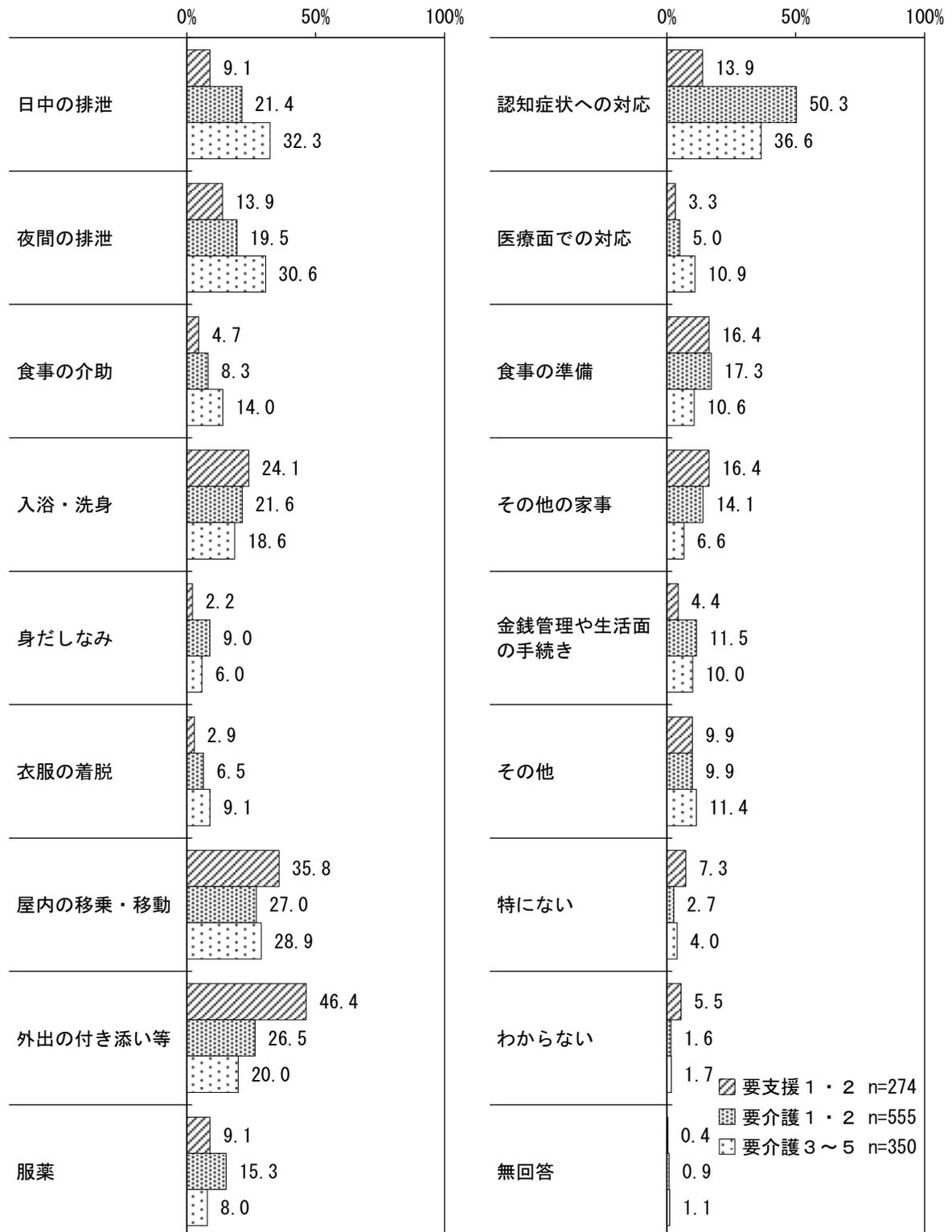
主な介護者が不安を感じる介護等を世帯類型別にみると、いずれの世帯においても「認知症状への対応」が最も高く、「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」を含めた3項目が上位を占めています。

図表2-27 介護者が不安を感じる介護等（世帯類型別、複数回答）



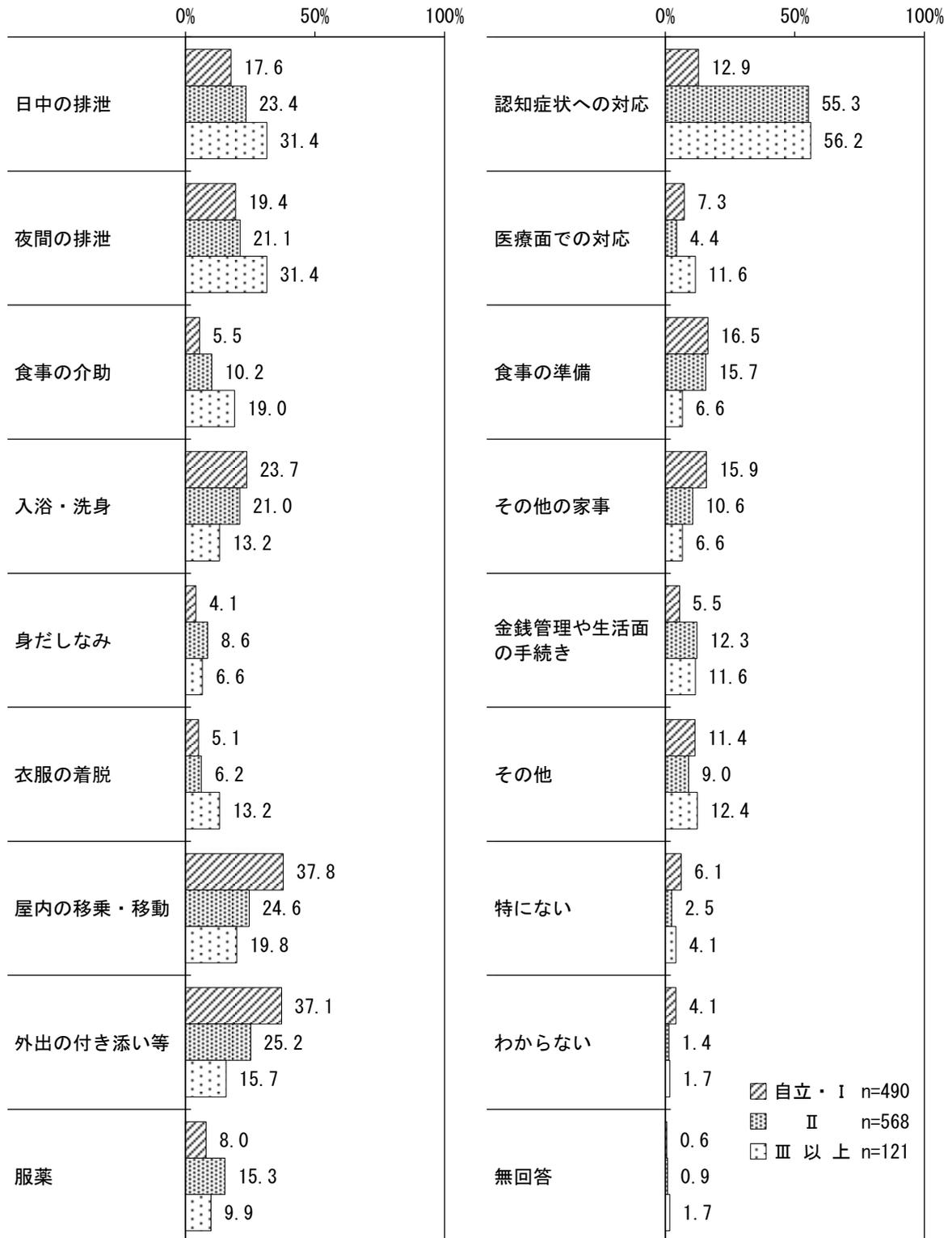
主な介護者が不安を感じる介護等を要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い等」が最も高く、要介護1・2および要介護3～5では「認知症状への対応」が最も高くなっています。重度になるほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」「衣服の着脱」が高く、軽度なほど「入浴・洗身」「外出の付き添い等」「その他の家事」などが高くなっています。

図表2-28 介護者が不安を感じる介護等（要介護度別、複数回答）



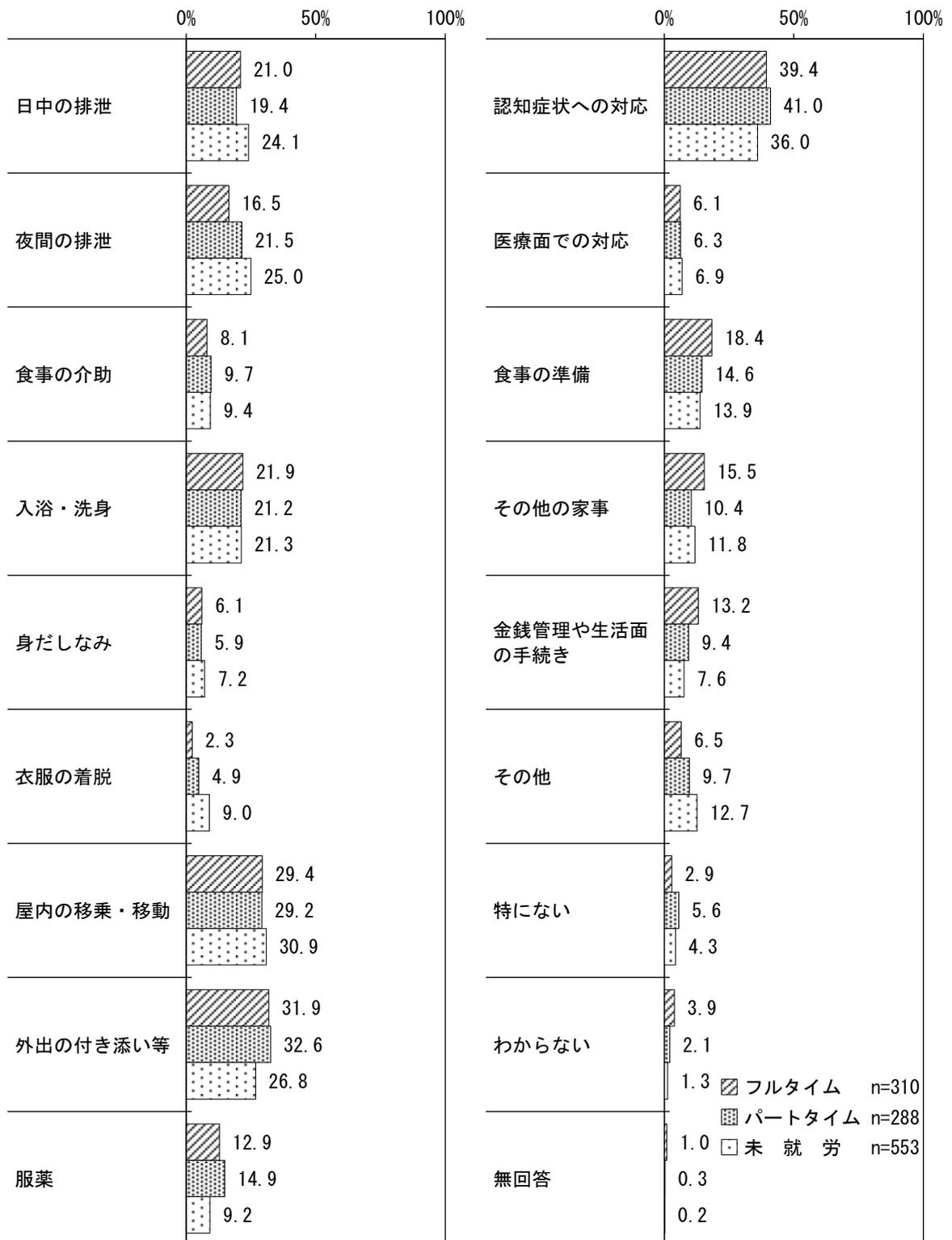
主な介護者が不安に感じる介護等を認知症自立度別にみると、自立・Ⅰでは「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」の2項目が37%台と高くなっています。ⅡおよびⅢ以上では「認知症状への対応」が55%以上となっています。重度になるほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」「衣服の着脱」が高く、軽度なほど「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」「食事の準備」「その他の家事」などが高くなっています。

図表 2-29 介護者が不安に感じる介護等（認知症自立度別、複数回答）



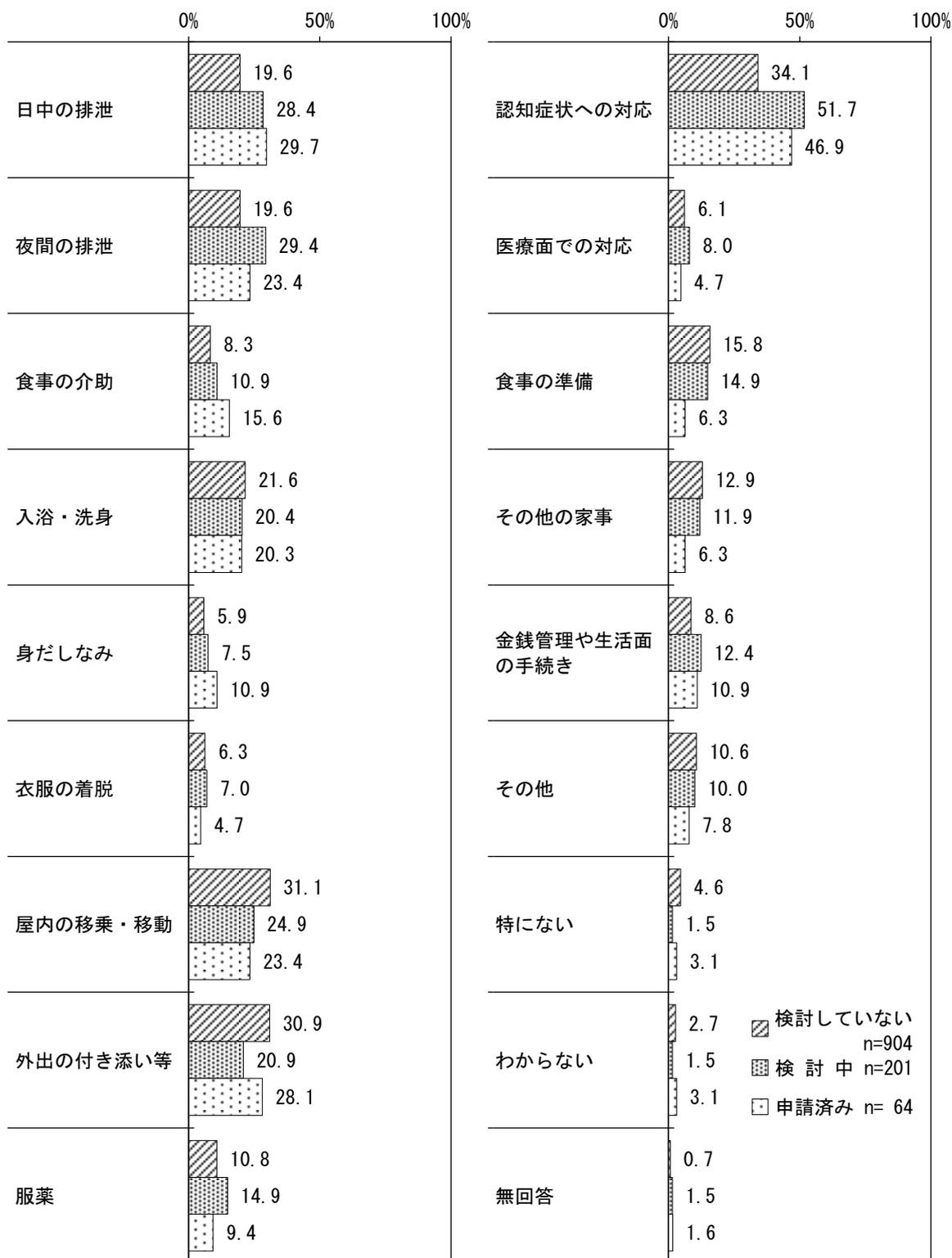
介護者が不安に感じる介護等を勤務形態別にみると、いずれの形態においても「認知症状への対応」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」が高くなっています。

図表 2-30 介護者が不安に感じる介護等（勤務形態別、複数回答）



介護者が不安を感じる介護等を施設等への入所・入居検討状況別にみると、検討していない人に比べて、検討中および申請済みが高いのは「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」「身だしなみ」「認知症状への対応」などです。

図表 2-31 介護者が不安を感じる介護等（施設等への入所・入居検討状況別、複数回答）

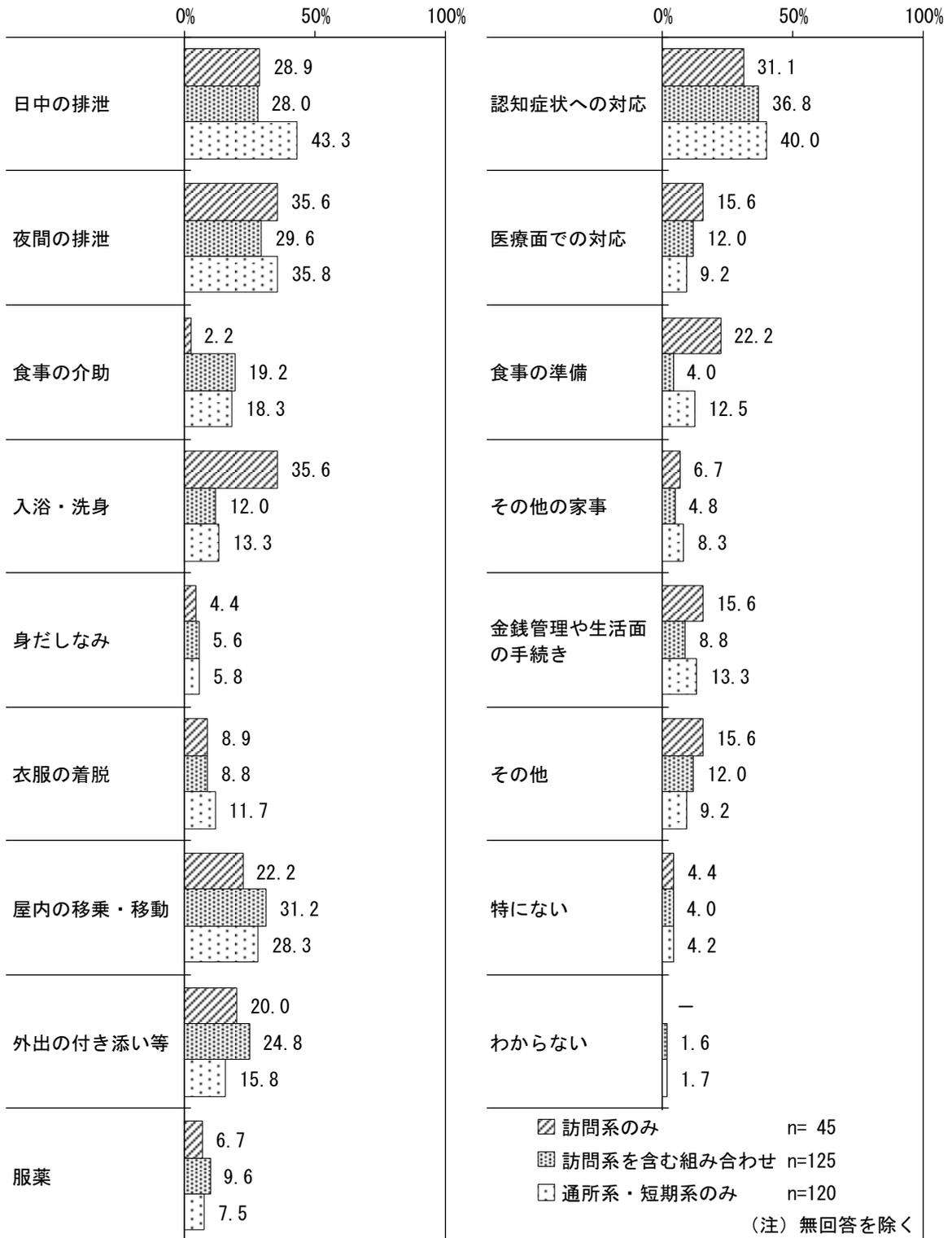


(6) サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①要介護3以上の場合、《訪問系のみ》は「入浴・洗身」「食事の準備」等が、《訪問系を含む組み合わせ》は「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い等」、《通所系・短期系のみ》は「日中の排泄」「認知症状への対応」が他に比べて高くなつ

図表2-32 サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等

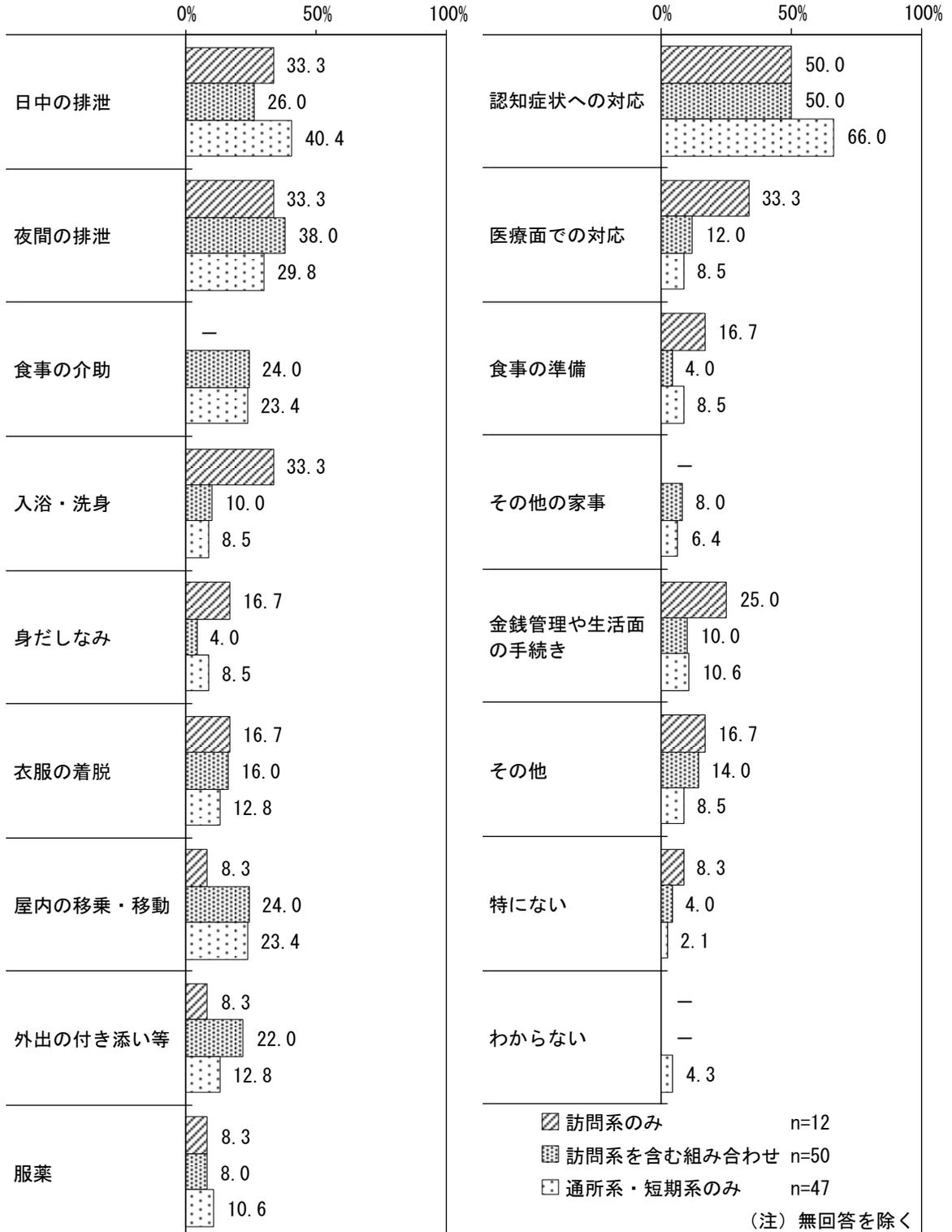
① 要介護3以上



ています。

②認知症自立度Ⅲ以上の場合、《訪問系のみ》は「入浴・洗身」「身だしなみ」「医療面での対応」「食事の準備」「金銭管理や生活面の手続き」等が、《訪問系を含む組み合わせ》は「夜間の排泄」「外出の付き添い等」、《通所系・短期系のみ》は「日中の排泄」「認知症状への対応」が他に比べて高くなっています。

② 認知症自立度Ⅲ以上



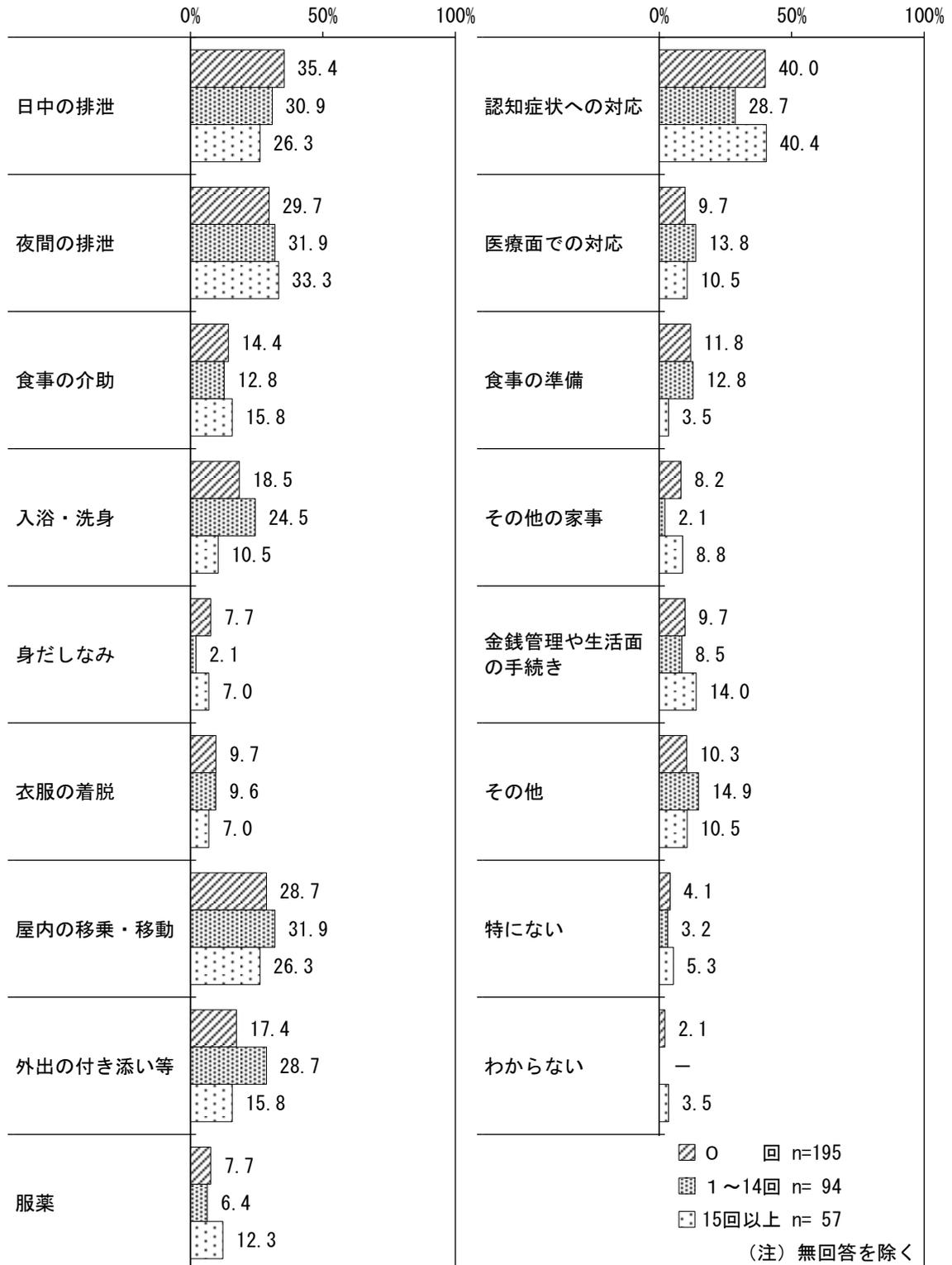
(7) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 訪問系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、利用回数が増えるにしたがい、「日中の排泄」が低

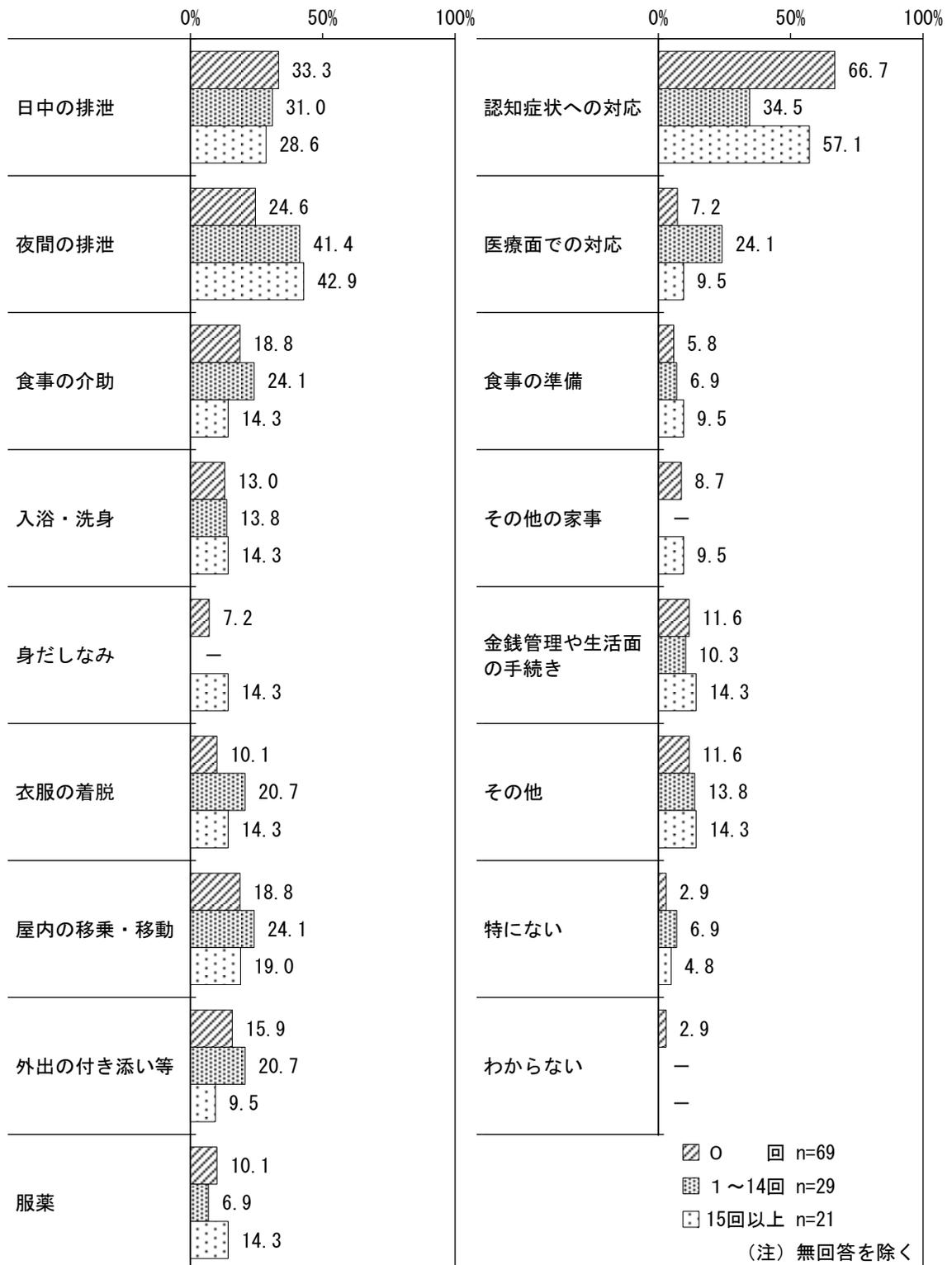
図表2-33 訪問系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 要介護3以上



くなり、「夜間の排泄」が高くなる傾向があります。

② 認知症自立度Ⅲ以上

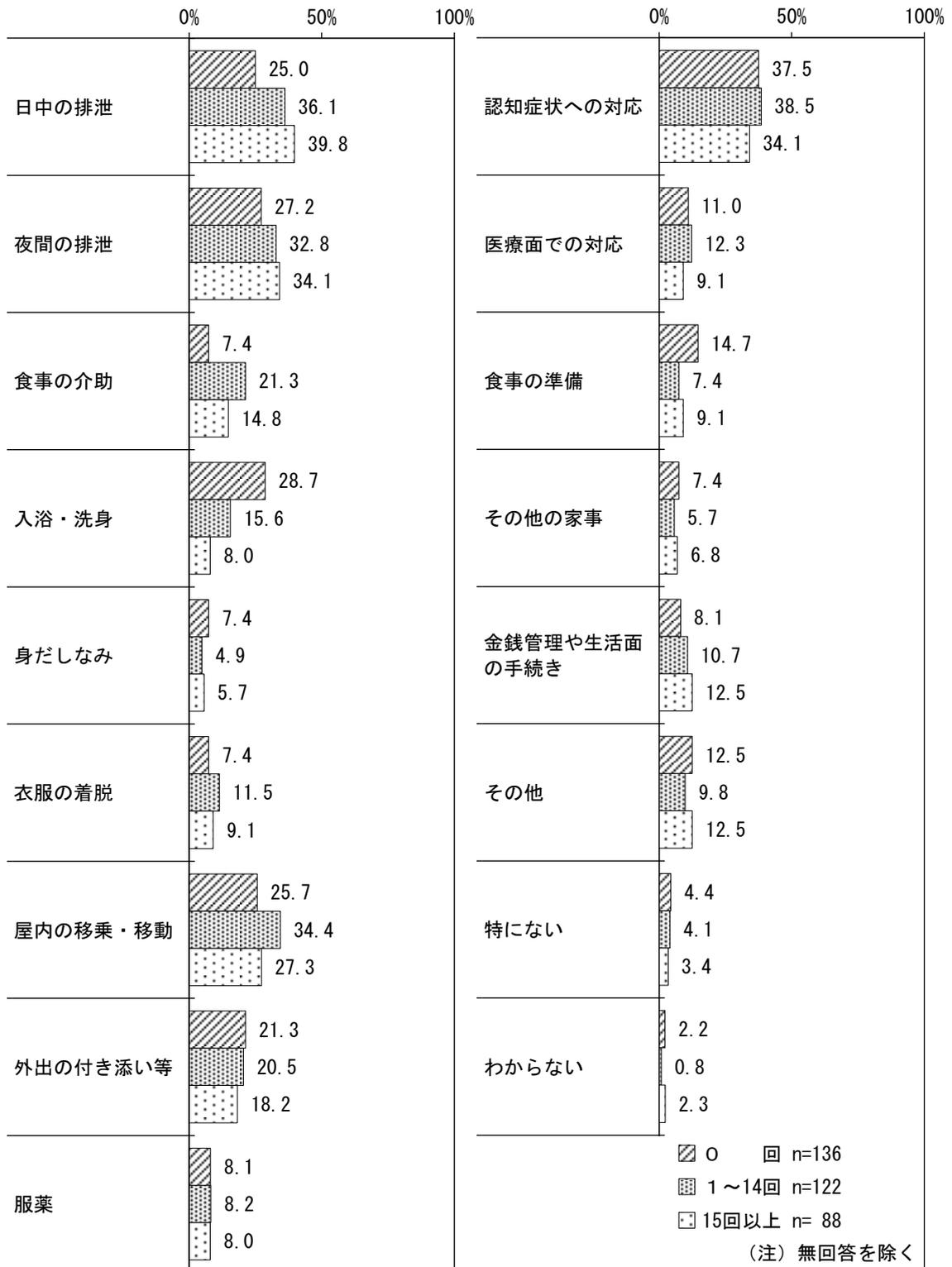


② 通所系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上ともに、利用回数が増えるにしたがい、「日中の排泄」「夜間の排泄」が高く、「入浴・洗身」が低く

図表2-34 通所系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

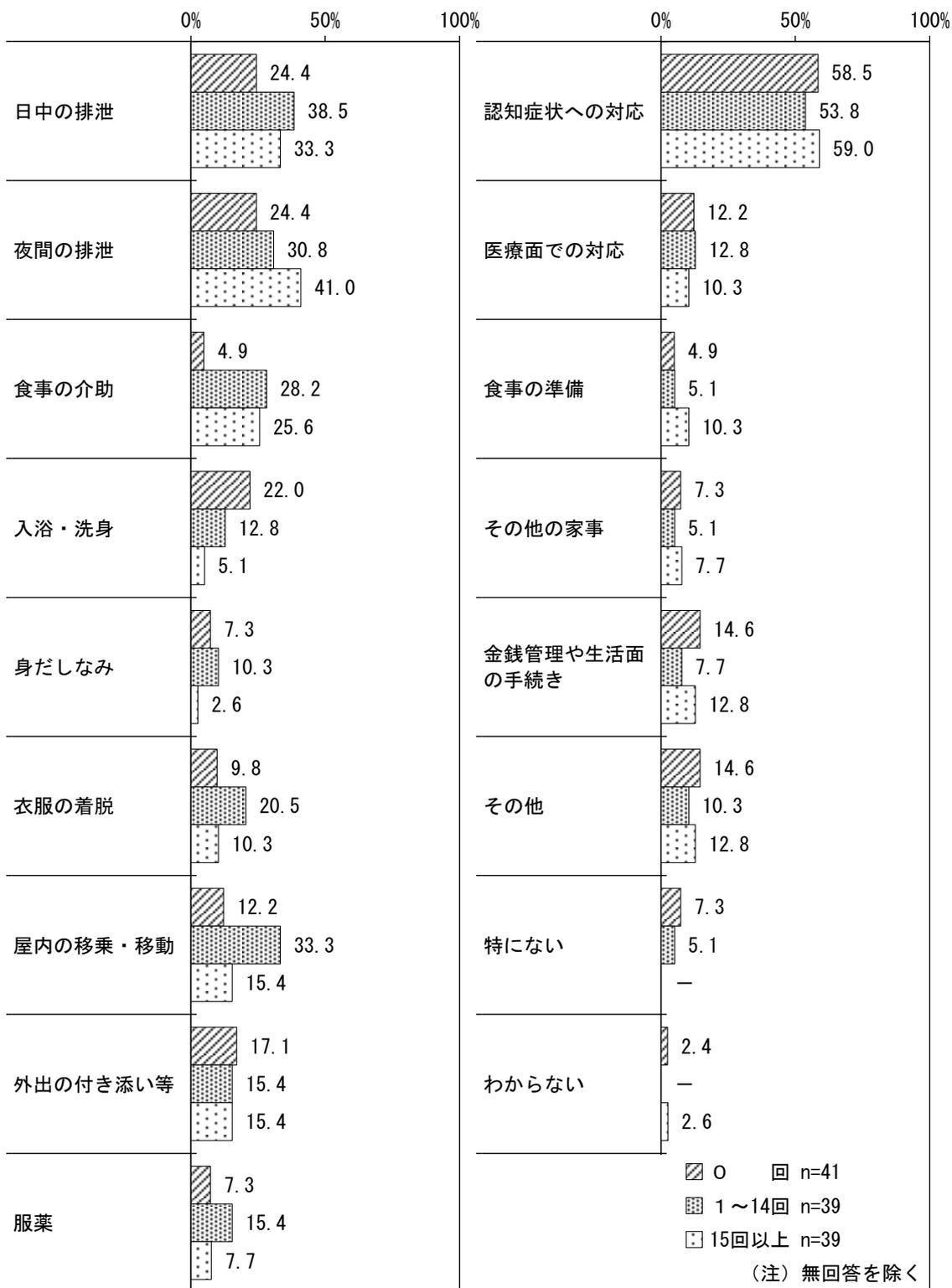
① 要介護3以上



なっています。

また、②認知症自立度Ⅲ以上の《1～14回》の利用者では「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」が《0回》や《15回以上》に比べて10ポイント以上高くなっています。

② 認知症自立度Ⅲ以上

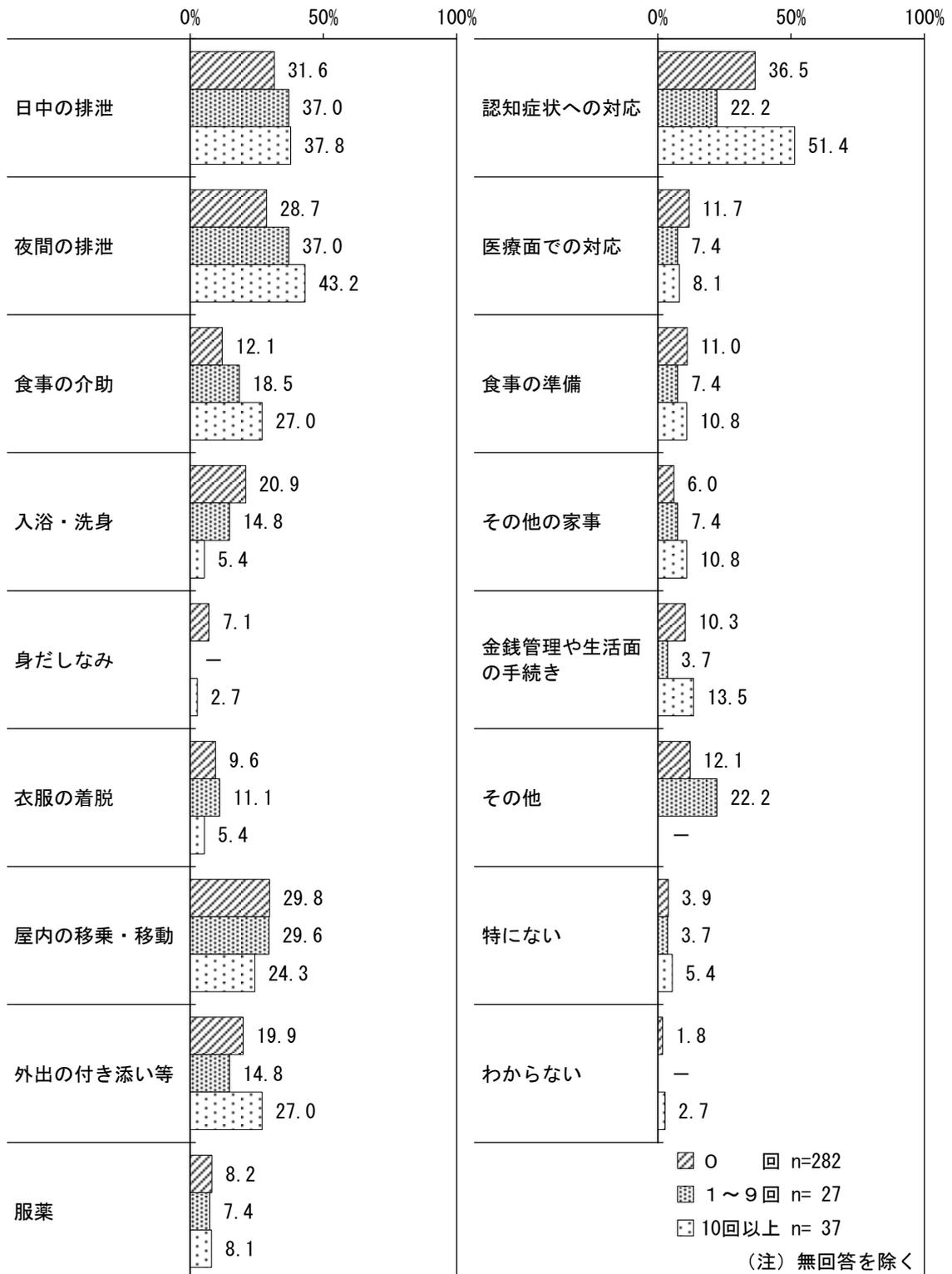


③ 短期系サービス

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、①要介護3以上では利用回数が増えるに伴い、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助」が高くなり、「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」

図表2-35 短期系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

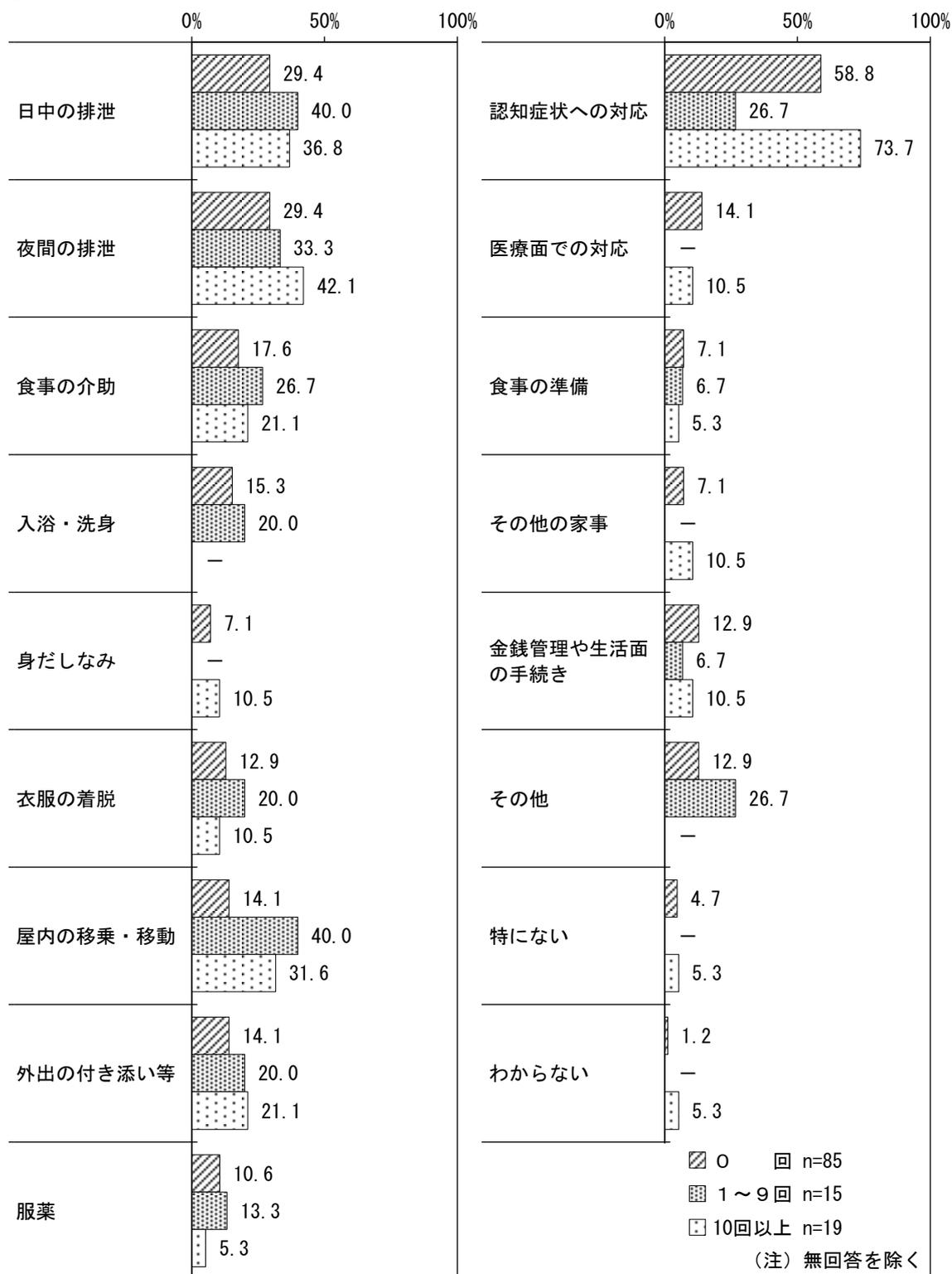
① 要介護3以上



が低くなる傾向があります。

②認知症自立度Ⅲ以上では、利用回数が増えるに伴い、「夜間の排泄」「外出の付き添い等」が高くなっています。

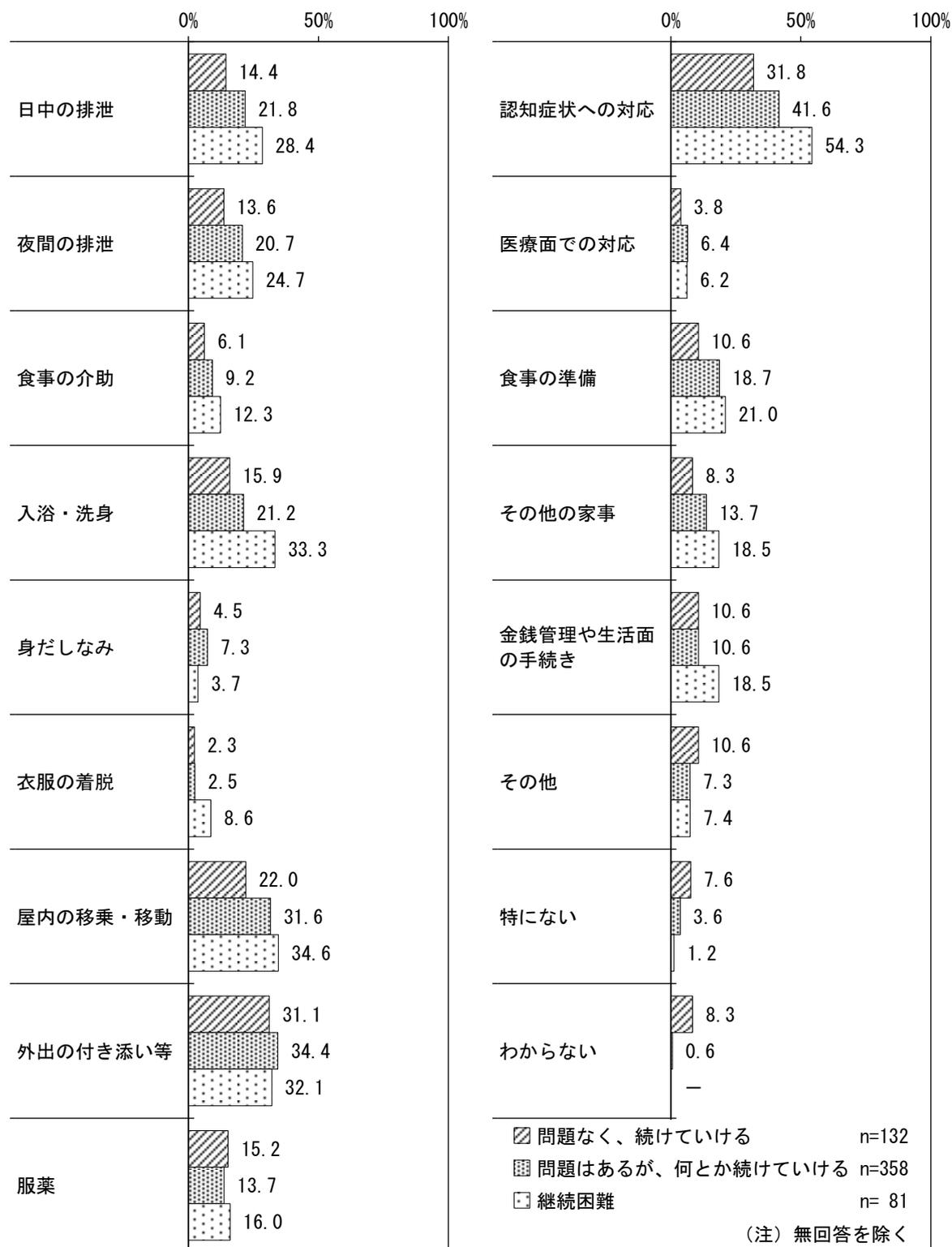
② 認知症自立度Ⅲ以上



(8) 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等

介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、就労継続が困難になるにしたがい全般的に不安が高くなる傾向にあります。

図表 2-36 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等



(9) 主な介護者の勤務形態

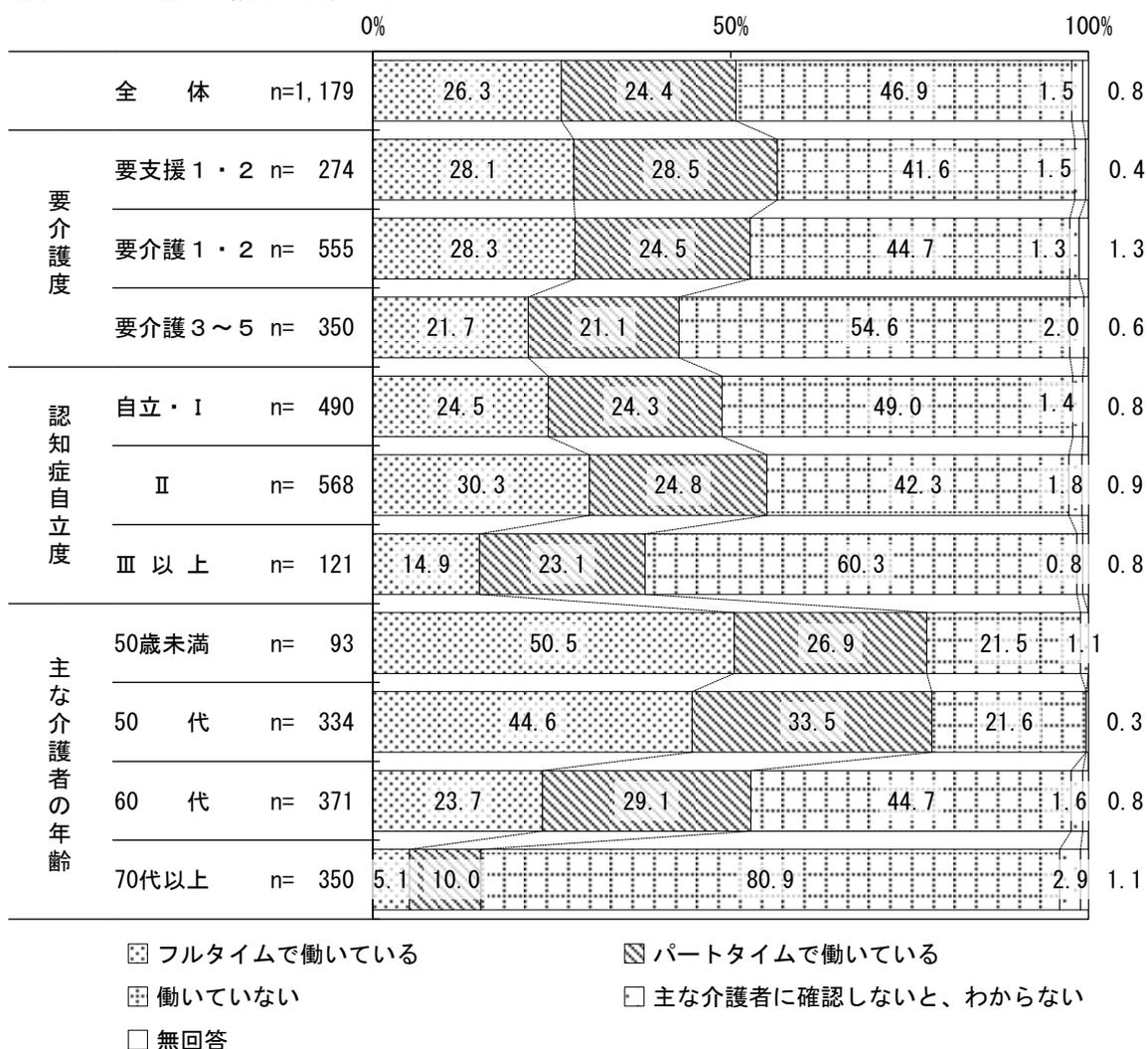
主な介護者の勤務形態は、「フルタイムで働いている」(26.3%)と「パートタイムで働いている」(24.4%)を合計した<働いている>は50.7%です。「働いていない」は46.9%です。

要介護度別にみると、<働いている>は要支援1・2および要介護1・2では50%を超えていますが、要介護3～5では42.8%です。

認知症自立度別にみると、<働いている>はⅡが55.1%、自立・Ⅰが48.8%と50%前後となっていますが、Ⅲ以上では38.0%と低くなります。

主な介護者の年齢別にみると、50歳未満および50代は<働いている>が75%以上となっており、「フルタイムで働いている」人も40%以上となっています。

図表2-37 主な介護者の勤務形態



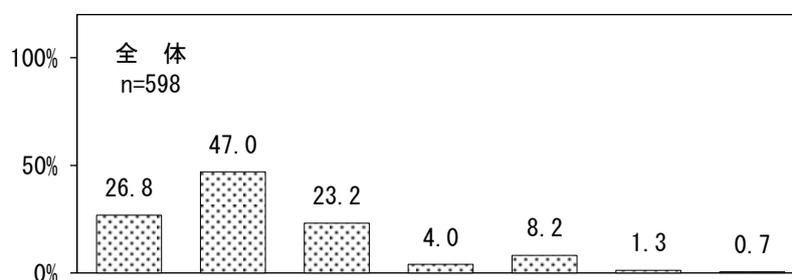
(10) 働き方の調整

主な介護者が介護をするにあたって働き方についての調整等をしているかたずねたところ、「特に行っていない」は26.8%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が1.3%、無回答が0.7%あり、71.2%（100%－（26.8%＋1.3%＋0.7%））の人は何らかの＜働き方の調整をしている＞こととなります。

調整の内容としては、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている（A）」が47.0%と最も高く、次いで「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている（B）」が23.2%、「介護のために、A～C以外の調整をしながら、働いている」が8.2%です。

図表 2-38 介護のために働き方を調整しているか（複数回答）

単位：nは人、他は%

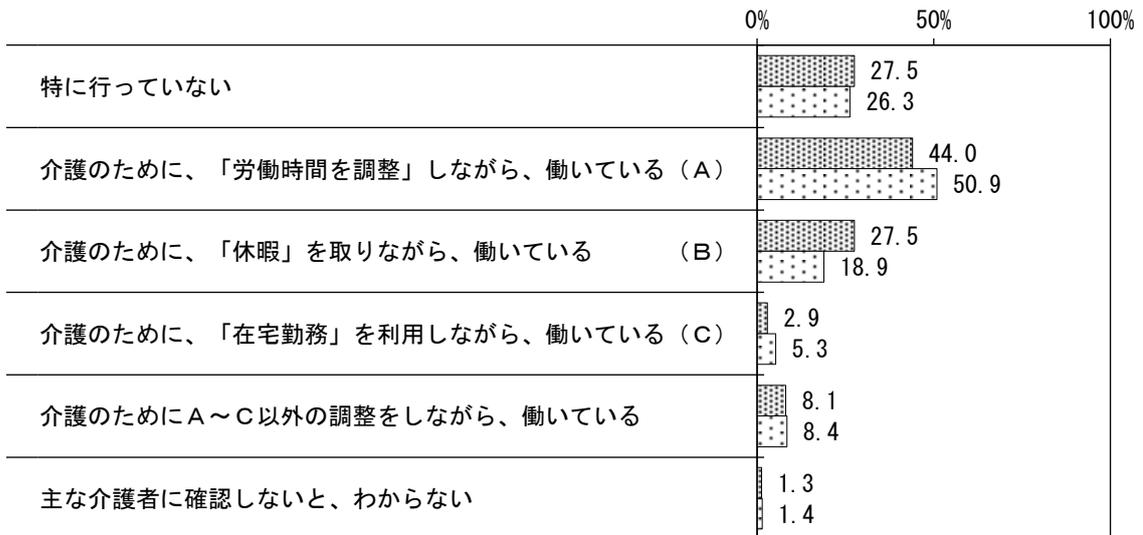


区分		n	特に行っていない	介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている (A)	介護のために、「休暇」を取りながら、働いている (B)	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている (C)	介護のために、A～C以外の調整をしながら、働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
世帯類型	単身世帯	177	32.2	40.7	26.0	3.4	5.1	2.8	0.6
	夫婦のみ	80	17.5	62.5	17.5	8.8	2.5	-	3.8
	その他	339	26.3	46.6	23.3	3.2	10.9	0.9	-
要介護度	要支援 1・2	155	34.2	38.1	21.3	3.2	9.0	1.3	1.9
	要介護 1・2	293	26.3	47.1	25.9	3.8	8.2	0.7	-
	要介護 3～5	150	20.0	56.0	20.0	5.3	7.3	2.7	0.7
認知症自立度	自立・I	239	30.1	43.1	21.8	3.8	8.4	2.1	1.3
	II	313	24.9	48.9	24.6	3.8	8.6	1.0	-
	III以上	46	21.7	54.3	21.7	6.5	4.3	-	2.2
主な介護者勤務形態	フルタイム	310	27.4	43.9	27.4	2.9	8.1	1.3	0.3
	パートタイム	288	26.0	50.3	18.8	5.2	8.3	1.4	1.0

主な介護者の勤務形態別に、詳細をみると、フルタイムでは「休暇」、パートタイムでは「労働時間を調整」が、別の勤務形態に比べ高くなっています（図表2-39）。

また、就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていける人は「特に行っていない」が最も高く、問題はあがるが、何とか続けていけるや継続困難な人は「労働時間を調整」が最も高くなっています（図表2-40）。

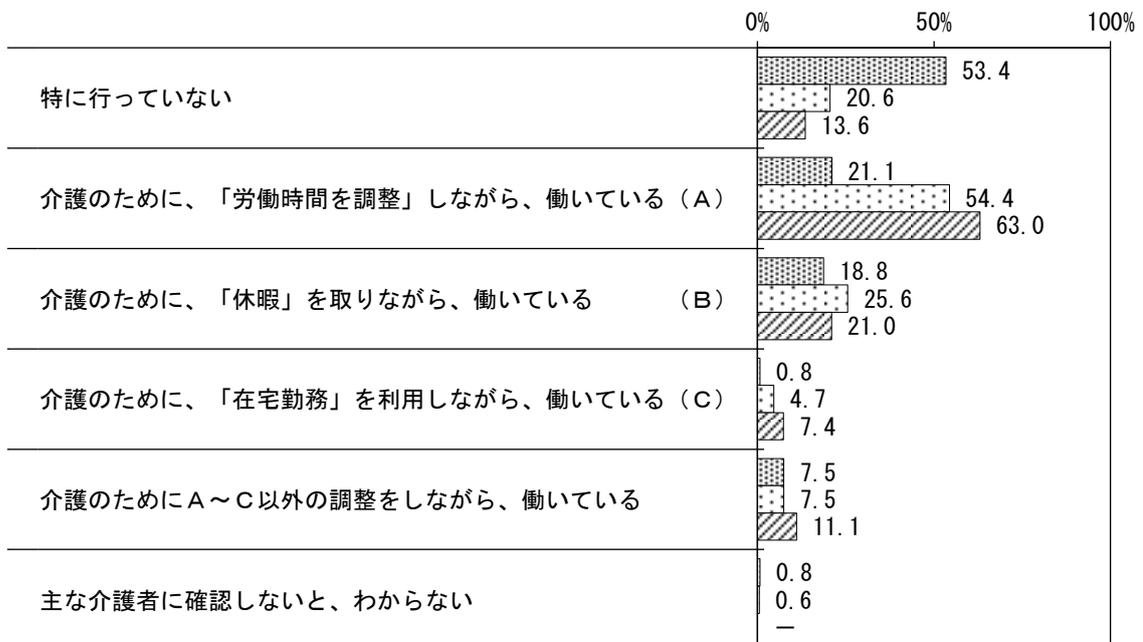
図表2-39 介護のために働き方を調整しているか（勤務形態別・複数回答）



■ フルタイム n=309 □ パートタイム n=285

(注) 無回答を除く

図表2-40 介護のために働き方を調整しているか（就労継続の見込み別・複数回答）



■ 問題なく、続けていける n=133

□ 問題はあるが、何とか続けていける n=360

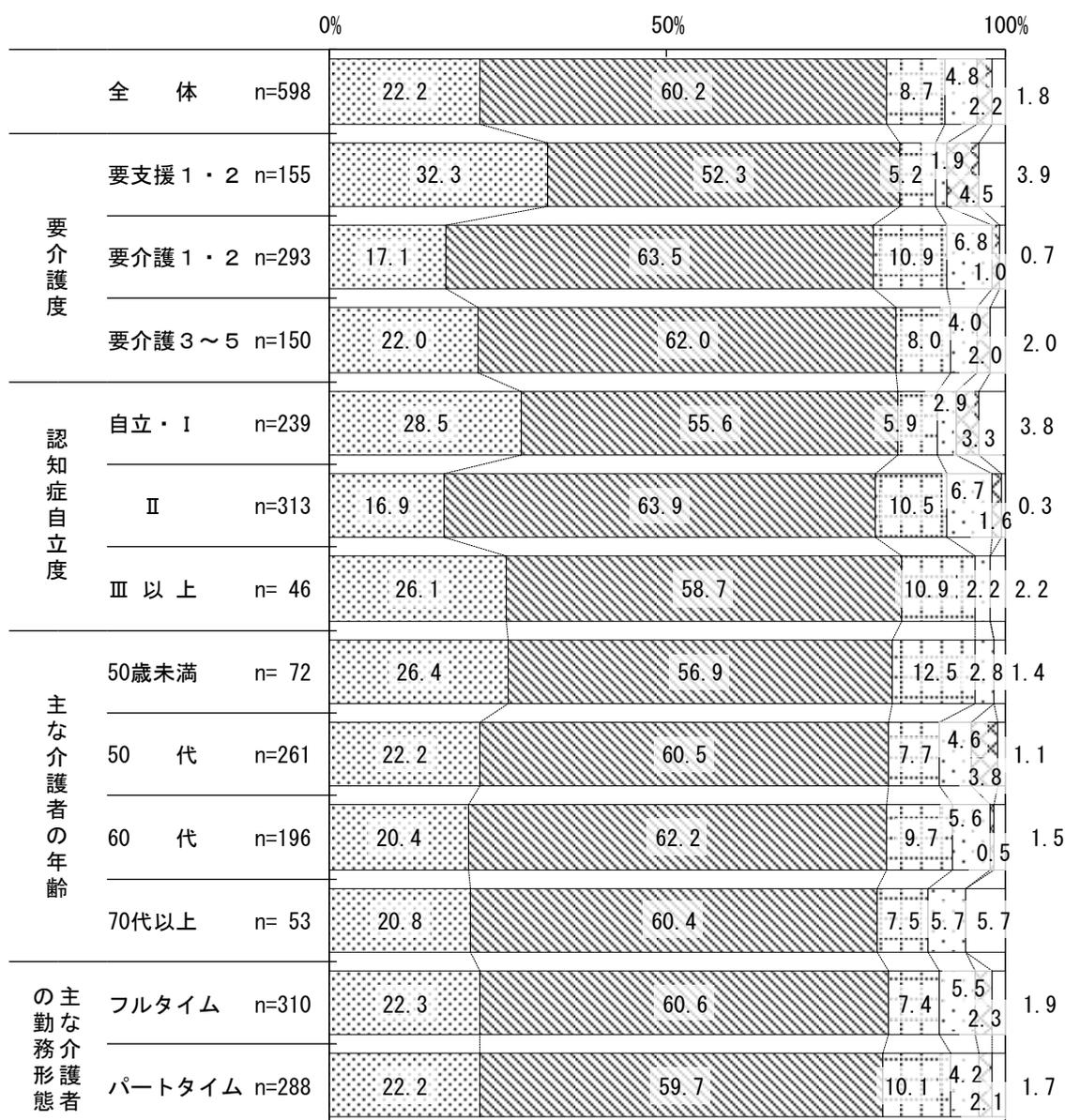
▨ 継続困難 n=81

(注) 無回答を除く

(11) 就労継続の見込み

主な介護者が今後も働きながら介護を続けていけそうかをたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が60.2%を占めています。これに「問題なく、続けていける」(22.2%)を加えた<継続可能>は82.4%です。「続けていくのは、やや難しい」は8.7%、「続けていくのは、かなり難しい」は4.8%あり、これらの合計<継続困難>は13.5%です。

図表 2-41 働きながら介護を続けていけそうか



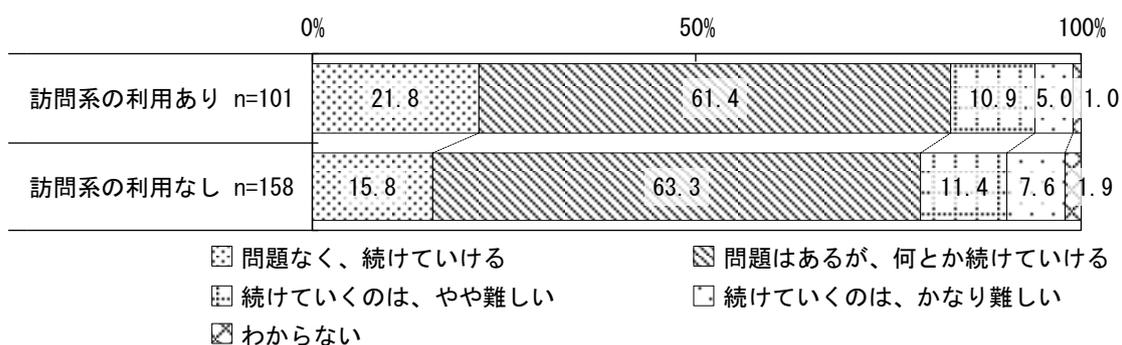
- ☐ 問題なく、続けていける
- ▨ 問題はあるが、何とか続けていける
- ▤ 続けていくのは、やや難しい
- ▧ 続けていくのは、かなり難しい
- ▩ 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

(12) サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み

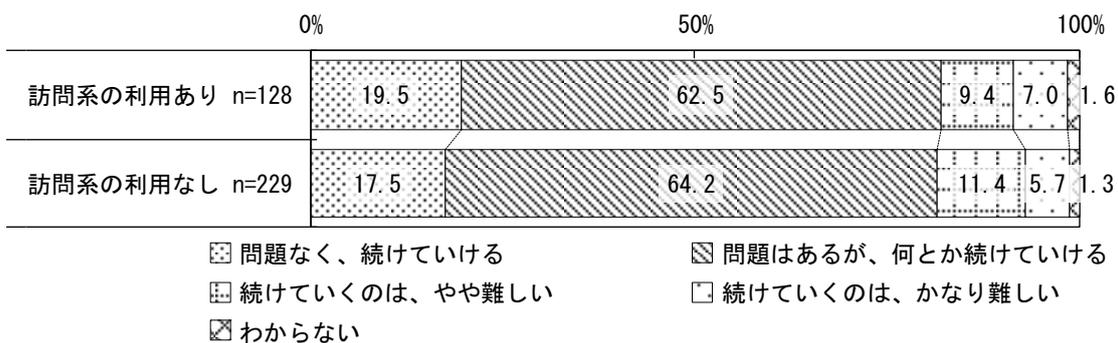
介護者の就労継続の見込みを、①要介護2以上、②認知症自立度Ⅱ以上に分けて、訪問系サービス利用の有無別にみると、①要介護2以上では、《訪問系の利用あり》の〈継続可能〉が《利用なし》に比べて高くなっています。②認知症自立度Ⅱ以上では、サービス利用の有無による大きな差はありません。

図表2-42 サービス利用の組み合わせと就労継続見込み

① 要介護2以上



② 認知症自立度Ⅱ以上



(注) 無回答を除く

在宅介護実態調査報告書

令和2年3月

発行 桑名市

編集 保健福祉部 介護高齢課

〒511-8601

桑名市中央町二丁目37番地

TEL 0594-24-5104

FAX 0594-27-3273